

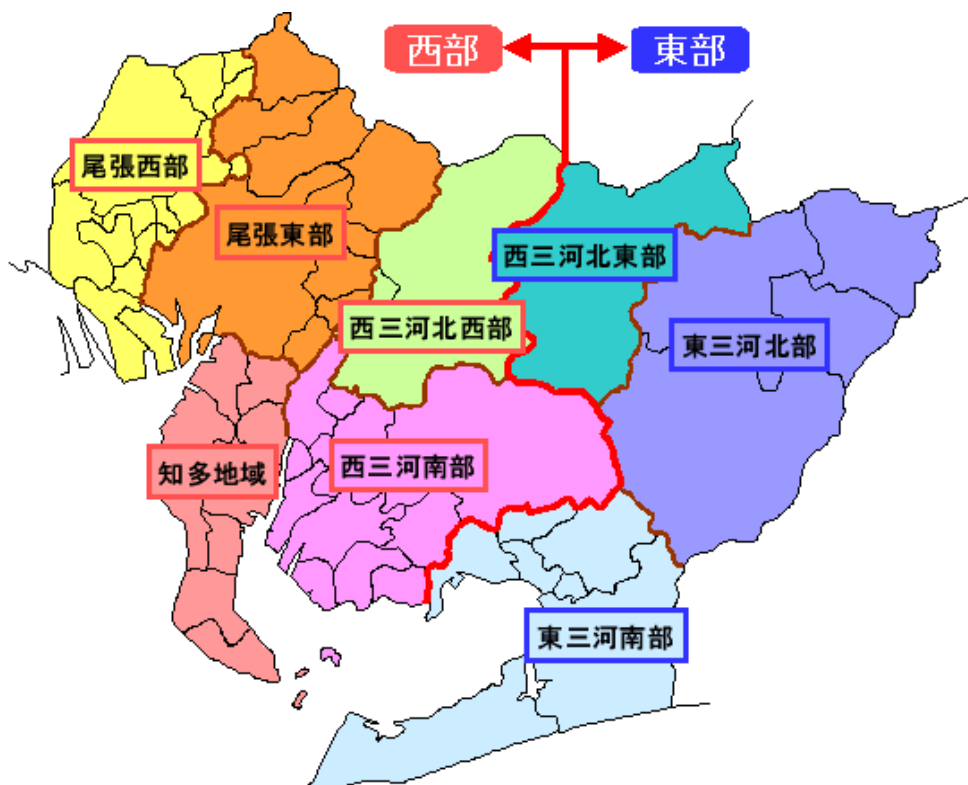
資料 10-1 気象予報警報の地域細分及び種類と発表基準

1. 気象予報警報等に係る愛知県予報区の二次細分区域(8細分区域)

愛知県の地域細分

平成30年1月現在(名古屋地方気象台)

	一次細分区域名	二次細分区域名	該当市町村
愛知県	西部	① 尾張東部	名古屋市、瀬戸市、春日井市、犬山市、小牧市、尾張旭市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町
		② 尾張西部	一宮市、津島市、江南市、愛西市、清須市、稲沢市、岩倉市、北名古屋市、弥富市、あま市、扶桑町、大口町、豊山町、大治町、蟹江町、飛島村
		③ 知多地域	半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、東浦町、阿久比町、武豊町、美浜町、南知多町
		④ 西三河南部	岡崎市、碧南市、刈谷市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、幸田町
		⑤ 西三河北西部	豊田市(西三河北東部の区域を除く)、みよし市
	東部	⑥ 西三河北東部	豊田市(旭支所、足助支所、稲武支所及び下山支所管内に限る)
		⑦ 東三河北部	新城市、設楽町、東栄町、豊根村
		⑧ 東三河南部	豊橋市、豊川市、蒲郡市、田原市



2. 警報・注意報発表基準

警報・注意報発表基準一覧表

平成29年7月7日現在
発表官署 名古屋地方気象台

犬山市	府県予報区	愛知県		
	一次細分区域	西部		
	市町村等をまとめた地域	尾張東部		
警報	大雨 (浸水害) (土砂災害)	表面雨量指数基準	23	
		土壌雨量指数基準	104	
	洪水	流域雨量指数基準	五条川流域=17, 合瀬川流域=5.8, 薬師川流域=6.2, 郷瀬川流域=9.3	
		複合基準 ^{*1}	-	
		指定河川洪水予報による基準	木曾川中流[犬山]	
	暴風	平均風速	20m/s	
	暴風雪	平均風速	20m/s 雪を伴う	
	大雪	降雪の深さ	12時間降雪の深さ10cm	
	波浪	有義波高		
	高潮	潮位		
注意報	大雨	表面雨量指数基準	15	
		土壌雨量指数基準	73	
	洪水	流域雨量指数基準	五条川流域=13.6, 合瀬川流域=4.6, 薬師川流域=4.9, 郷瀬川流域=7.4	
		複合基準 ^{*1}	五条川流域=(7, 13.6), 合瀬川流域=(7, 4.6), 薬師川流域=(7, 4.9), 郷瀬川流域=(7, 7.4), 木曾川流域=(7, 67.6)	
		指定河川洪水予報による基準	木曾川中流[犬山]	
	強風	平均風速	13m/s	
	風雪	平均風速	13m/s 雪を伴う	
	大雪	降雪の深さ	12時間降雪の深さ5cm	
	波浪	有義波高		
	高潮	潮位		
	雷	落雷等により被害が予想される場合		
	融雪			
	濃霧	視程	100m	
	乾燥	最小湿度30%で、実効湿度60%		
	なだれ			
低温	冬期:最低気温-4℃以下			
霜	晩霜期に最低気温3℃以下			
着氷・着雪	著しい着氷(着雪)が予想される場合			
記録的短時間大雨情報	1時間雨量	100mm		

^{*1}(表面雨量指数, 流域雨量指数)の組み合わせによる基準値を表しています。

資料 10-2 東海地方に影響のあった主な台風

1 昭和9年9月21日の室戸台風

この台風は、時速20kmくらいで海上を進んで19日夜沖縄南方に近づいた。ここで北東に転向、四国沖を進んで20日夜半すぎ室戸付近へ非常に強い大型台風として時速60kmで上陸した。上陸後は徳島の西方淡路島、神戸市、和田岬、深紅の北方宝塚池田付近敦賀の西方を通過したのち、速度は70~90kmに速まったが、勢力は衰えながら本州を縦断して宮古付近から三陸沖へ去った。

2 昭和28年9月25日の台風第13号

この台風は、トラック島南東方150kmの海上に発生し西から次第に北西に進んで22日夜、沖の鳥島の西方洋上で急速に発達して猛烈な大型台風になった。

この辺から四国沖に向け北上し25日17時すぎに志摩半島を横断毎時40kmぐらいの速さで伊勢湾をへてカムチャッカ半島へ去った。

3 昭和34年9月26日の伊勢湾台風

この台風は、エニウエトック島の西250kmの海上に発生した弱い熱帯低気圧が発達したもので、台風として認められたのは、9月21日15° N150° E付近に達した頃からである。それが9月23日マリアナ諸島で中心気圧が894hPaに達して超大型台風になり、北上して9月26日夜紀伊半島上陸後まで勢力があまり衰えなかった。

台風の上陸時に風速最大区域が台風中心経路の東側70km付近の志摩半島東部から伊勢湾にかけて舌状にのびていた。これにより伊勢湾に記録的な高潮が発生した。

愛知県全域の被害状況は、死者3,168人、行方不明者92人、負傷者59,045人、全壊家屋23,334棟、流失家屋3,194棟、半壊家屋97,049棟、一部破損287,059棟、床上浸水53,560棟、床下浸水62,831棟であった。

また、犬山市の被害状況は、死者5人、負傷者129人、全壊家屋170棟、半壊家屋641棟、床下浸水31棟であった。

4 昭和36年9月16日の第2室戸台風

マーシャル諸島付近で発生した弱い熱帯低気圧が、9月8日15時に台風第18号となった。12日朝にはマリアナ群島の南西海上で900hPa以下の超大型台風に発達し、14日夜半沖縄の東側でゆっくり転向し、16日朝には四国南海上から室戸岬をかすめて大阪湾に向い同日13時30分頃尼ヶ崎と西ノ宮の間に上陸した。その後15時頃敦賀付近に進んだ。

台風の規模も進路も昭和9年の室戸台風に似た台風であった。

5 昭和37年7月27日の台風第7号

この台風は、硫黄島の東方およそ1,500km海上に発生したもので、発生地が非常に北東にかたよっていた。

発生後1日は、ほぼ北上、2日目が西進して27日四国南東海上で転向、潮岬と白浜の間に27

日13時ごろ上陸して、東海道西部、関東北部を通過して三陸沖に去った。海上を進行中は965hPaぐらいの中心気圧の中型の規模だったが上陸後は急におとろえ、28日には早くも、1,000hPaの熱帯低気圧になった。

6 昭和37年8月26日の台風第14号

この台風は8月21日9時マリアナ諸島の海域で発生した。硫黄島付近にかかったころには中心気圧950hPaになり、にわかに注目されるようになったが、いわゆる夏台風特有の小型であった。

小笠原諸島の父島西方をすぎる頃から向きを北に変え、そのまま中部日本に向かって北上した。

26日の4時ごろ中心が三重県の北牟婁郡中島付近に上陸し、その後も真っ直ぐ北上し琵琶湖付近をとおって日本海へぬけた。

7 昭和46年8月30～31日の台風第23号

この台風は、8月21日9時、南鳥島の南西に発生しゆっくり北西のち西北西に進み、28日朝、奄美大島の南東方に達した。

この頃から移動速度がさらに遅くなり急に発達しはじめ屋久島付近を通過する頃中心気圧915hPaに低下した。

29日夜半頃大隅半島（佐多岬）に上陸し、四国から大阪付近、三重県南部を通り31日昼頃伊良湖岬をかすめて東方へ去った。

8 昭和47年9月16日の台風第20号

この台風は9月13日12時、沖の鳥島の南500kmに発生した。ゆっくり北西に進み、沖の大東島の南海上で転向し進行方向を北から北北東に変えた。

一方15日15時には低気圧が朝鮮半島北部の元山沖約400kmにあり、閉そく前線が南東にのびて、愛知県付近に達し、愛知県では、この前線の影響により15日朝から降雨が強くなった。

台風は、16日18時30分頃潮岬付近に上陸した。その後、紀伊半島を縦断し、三重県を経て、岐阜県西部を通り17日朝5時には佐渡付近に達し午後には北海道西岸に達した。

9 昭和54年9月30日～10月1日の台風第16号

9月23日15時ヤップ島の北西海上で台風となった台風第16号は発達しながら北西に進み、26日の朝には沖縄の南南東の海上で中心気圧920hPaとなり、最盛期を迎えた。26日の昼頃から速度を落としながら北向きにコースを変え、29日15時には奄美大島の東海上に達した。台風はこの頃からさらに向きを北東に変えながら次第に加速し、30日18時30分頃高知県室戸付近に上陸（955hPa）した。23時頃大阪市に再上陸（965hPa、大型・並の強さ）、岐阜市の北を通過して本州を北東に縦断し、10月1日9時には八戸沖へぬけた。

10 昭和54年10月19日の台風第20号

10月6日15時トラック島の東で台風となった。台風第20号は8日の朝から北西に進み始め、9日夜グアム島の南海上を通過した頃から急速に発達。12日15時には沖ノ鳥島の南南東約400kmの海上で中心気圧870hPaを観測、最盛期（大型、猛烈な台風）となった。台風はその後ゆっくりした速さで西北西に進み16日早朝から北北西に向きを変え、18日9時には沖縄の南約150kmの海上

に達した。

台風はこの頃から次第に北東へ向きを変えながら加速し、19日9時40分頃和歌山県白浜付近に上陸(965hPa、大型・並の強さ)、名古屋市のすぐ西を通過して本州を北東に縦断し、19時には八戸沖へぬけた。

11 平成2年9月19日～20日の台風第19号

グアム島の北西海域で発生した弱い熱帯低気圧は9月13日台風第19号となり、発達しながら北西に進み、16日から17日にかけて、ゆっくり沖縄の南東海上に近づき、急激に発達した。17日午後には中心気圧890hPaを記録し、猛烈な台風となった。

その後台風は北東進し、950hPa以下の勢力を保ったまま、19日20時過ぎ和歌山県の白浜の南に上陸した。上陸後速度を上げて近畿地方から東海地方を通り、本州を縦断し、20日12時には三陸沖にぬけた。

12 平成3年9月18日～19日の台風第18号

台風第18号は18日、沖縄の東沖を加速しながら北東進。それに伴い本州海岸の秋雨前線の活動が活発となった。台風は翌19日夕方、八丈島の南を通り、夜には銚子沖に達し、20日早朝三陸沖で温帯低気圧となった。このため、東海地方を含め、太平洋岸各地では記録的な大雨となり、被害は東海地方から東北地方の16都県に及んだ。

愛知県では、既に18日午前中全域雨となり、夜半過ぎから所々激しく降り、18日・19日にかけて100～300ミリの大雨となった。名古屋では19日の日雨量217.5ミリを観測し、これは累年第2位の記録となった。

13 平成6年9月29日～30日の台風第26号

9月19日3時にグアム島の南西海上で台風となった第26号は、発達しながら概ね北に進路をとり、29日19時半頃大型で強い勢力を保ったまま和歌山県南部に上陸した。上陸後の中心気圧は950hPa、中心付近の最大風速は40m/sであった。上陸後は勢力を弱めながらやや速度を速め、琵琶湖付近を通過して30日3時には石川県沖に進んだ。

この台風の影響により、東部の山間部では総雨量が200mmを超えた。

14 平成10年9月21日～23日の台風第7号と第8号

9月17日21時にフィリピンの西の海上で発生した台風第7号は、徐々に発達しながら南西諸島の東海上を北東進した。また、台風第8号は、9月20日に日本の海上で発生し、北上した。

日本の上陸は第8号のほうが早く、21日16時前に和歌山県田辺市付近に上陸し、翌日の22日13時過ぎには第7号が和歌山県御坊市付近に上陸した。

第8号の上陸時の勢力はごく小さく、弱いものであったが、21日夜に一時風雨が強くなった。第8号は強い雨が顕著で、東部の山間部では21日の21時から23時にかけて、1時間に40から60mmの激しい雨が降った。

一日遅れて上陸した第7号は、中型で、強い勢力を保って22日15時頃に滋賀県をとおり、北陸へ向かった。台風が愛知県の西を強い勢力で進んだことから、県内では南寄りの暴風が吹き荒れ、名古屋では最大瞬間風速、南南東の風42.6m/sを観測した。この値は昭和34年の伊勢湾台風時に

観測した45.7m/sに次ぐ観測開始以来第2位の記録となった。

15 平成12年9月11日～12日の台風第14号

サイパン島の東海上にあった熱帯低気圧は、9月2日21時に台風第14号となった。10日9時には南大東島の東南東の海上に達し、大型で非常に強い勢力に発達した。一方、9月11日から12日かけて、日本付近には秋雨前線が停滞しており、この前線に向かって台風第14号からの暖かく湿った空気が多量に流れ込んで活動が活発となり、愛知県を中心とした東海地方で記録的な大雨となった。台風は、12日19時過ぎには沖縄を通過し、東シナ海で向きを北寄りに変え、九州の西海上を北東に進んで朝鮮半島に上陸した。その後、日本海に進み16日15時には日本海西部で温帯低気圧となった。

愛知県では県西部を流れる「新川」の堤防が決壊したのをはじめ、河川の破堤は20箇所に達したほか、名古屋市内では広範囲に浸水被害が発生した。

この大雨で、名古屋地方気象台が観測した日最大1時間降水量97.0mm、日最大降水量428.0mm、月最大24時間降水量534.5mmは、いずれも統計開始以来最も多い値となった。

(注1) 「東海地方に影響のあった台風」及び進路図は、単に大雨のみを降らせた台風について、進路、形態ともに複雑であるため、この資料から除いてある。

(注2) 平成4年12月1日、気象庁は台風情報等に用いる気圧の単位をhPa(ヘクトパスカル)に変更した。1mb=1hPaであることから、従前のmb(ミリバール)との換算は必要なく、単位を読み変えることのみで、旧来の資料等は使用することができる。

(注3) 被害状況のうち、家屋の単位を棟として記載した。

16 平成23年9月1日～7日の台風第12号

台風第12号の西日本への上陸により、東海地方や関東甲信地方の山沿いを中心に大雨となり、特に三重県で河川のはん濫による甚大な災害をもたらしたほか、土砂災害や浸水による被害、突風などが発生した。また、強風や高波により、鉄道や航空機の運休、高速道路の閉鎖など交通機関にも影響をおよぼした。この台風は、四国・中国地方を縦断したが、動きが遅かったため、紀伊半島を中心に南東側に開けた山沿いでは、長時間にわたって激しい雨が降り続き、特に三重県南部では記録的な大雨となった。特に、東海地方や関東地方の南東側に開けた山沿いでは、降り始め(30日17時)から5日9時までの総降水量が500ミリを超え、三重県多気郡大台町宮川で1630.0ミリ、静岡県静岡市葵区井川で1024.0ミリ、栃木県日光市日光で827.5ミリを観測するなど、その他の地点でもこの数日間で年降水量平年値※の約1/3以上の降水量を記録した。

17 平成23年9月20日～21日の台風第15号

マリアナ諸島の北で発生した熱帯低気圧が徐々に発達し、13日午後9時に日本の南海上で台風となった。その後ゆっくりと発達しながら西に移動し、沖縄本島近海で停滞。3日間かけて、反時計回りの円を描いて海上を一周。その後一時北へ移動した後、北東に進路を変えて速度を速めるとともに、急速に勢力を強めた。21日午後2時過ぎに静岡県浜松市付近に上陸。徐々に勢力を弱めつつ、さらに速度を上げ、東海・関東・東北地方を縦断。同日22時頃に太平洋に抜けた。強い勢力を保ったままさらに北上し、北海道東部を暴風域に巻き込んだ。台風から変わった温帯低気圧は、西高東低型気圧配置の構成要因ともなり、日本海側を中心に雨が残った。22日の夜には温帯低気圧から伸びる前線が関東にかかり、降水となった。

資料 10-3 台風の大きさと強さの分類

(名古屋地方気象台)

大きさの表現

階 級	風速15m/s以上の半径
大型 : (大きい)	500km以上 ~ 800km未満
超大型: (非常に大きい)	800km以上

強さの表現

階 級	最 大 風 速
強 い	33m/s(64ノット)以上 ~ 44m/s(85ノット)未満
非常に強い	44m/s(85ノット)以上 ~ 54m/s(105ノット)未満
猛烈な	54m/s(105ノット)以上

資料 10-4

愛知県における既往の地震とその被害

海洋型大地震

西暦年	地震名	規模 (M)	被害・摘要
1707	宝永地震	8.6	豊橋、渥美郡で大被害のほか、全県で被害。尾張領内の堤防被害延長 9,000m。震度 7～6。津波も来襲し、渥美表浜で 6～7m にもなった。
1854	安政地震	8.4	宝永地震に似た被害で、三河、知多、尾張の沿岸部の被害が目立った。津波も来襲し、渥美表浜通りで 8～10m、知多半島西岸で 2～4m となり被害が出た。震度 6～5
1944	東南海地震	7.9	死者、行方不明者 1,223 人。県の被害は他県に比べ最大で、死者・行方不明者 428 人、負傷者 1,148 人、家屋全壊 16,532 棟、同半壊 35,298 棟。震度 5～6、一部 7。小津波あり (波高 1m 内外) 名古屋臨港部などでは著しい液状化現象による被害があった。
1946	南海地震	8.0	地震による被害は、中部地方から九州まで広範囲に及んだ。愛知県の被害は状況は、死者 10 人、負傷者 19 人、全壊家屋 75 棟、半壊家屋 720 棟である。 一般に震害はほとんどなく、津波による被害が目立った。津波は房総半島から九州地方に至る沿岸を襲った。
2011	東北地方 太平洋沖地震	9.0	死者 15,852 人、行方不明 3,287 人、負傷者 6,011 人、建物全壊 128,716 棟、半壊 244,991 棟 (H24. 2. 21 現在)

内陸型大地震

西暦年	地震名	規模 (M)	被害・摘要
1586	天正地震	7.8	死者 5,500 人以上。この地震の震央は伊勢湾で、長島付近では大被害を受け震度 7、尾張部 6、三河部 6～5。津波波高 2～4m。
1891	濃尾地震	8.0	死者 7,885 人。県の被害は、死者 2,638 人、負傷者 7,705 人、全壊 85,511 棟、半壊 55,655 棟で県の地震災害史上最大の被害を受けた。震度 7～6。
1945	三河地震	6.8	死者 2,306 人。三河南部の深溝断層の活動によるもので、幡豆郡、碧海郡に大被害が生じた。被害はすべて県のもので、死者 2,306 人、負傷者 3,866 人、全壊 16,408 棟、半壊 31,679 棟。震度は、西三河南部を中心に 7～6、県域の大部分が 5 以上。津波も発生し、蒲郡で 1m ほどに達したが津波による被害はほとんどなかった。
1995	平成 7 年 兵庫県南部地震	7.2	死者 6,308 人、行方不明 2 人、負傷者 43,177 人、建物全壊 100,302 棟、半壊 108,741 棟 (H7. 12. 27 現在)

資料 10-5 国内における著名大地震一覧表

発生年月日	地震名	M	地域	被害状況等
明治 5. 3. 14	浜田地震	7.1	島根県西部	死者522 家屋倒壊4,762 山崩れ6,567
24. 10. 28	濃尾地震	8.0	岐阜・愛知	死者7,885 家屋全壊164,661 半壊123,158 山崩れ 一万戸 大断層(根尾谷)
27. 10. 22	庄内地震	7.0	秋田・山形	死者762 家屋全壊3,885 半壊2,397 焼失2,148
29. 6. 15	三陸地震津波	8.1	三陸沖	死者27,122 家屋流失全半壊8,891 船舶流出7,032 (津波被害)
大正 12. 9. 1	関東大震災	7.9	関東南部	死者 99,331 行方不明43,476 家屋全壊128,266 半壊126,233 焼失447,128
14. 5. 23	北但馬地震	6.8	兵庫北部	死者428 家屋全壊1,295 焼失2,180
昭和 2. 3. 7	北丹後地震	7.3	京都・兵庫	死者2,925 家屋全壊12,584 焼失3,711 断層(郷村)
5. 11. 26	北伊豆地震	7.3	静岡東部	死者272 家屋全壊2,165 断層(加殿、原保)
8. 3. 3	三陸津波地震	8.1	三陸沖	死者3,008 家屋流失4,917 倒壊2,346 浸水4,329 船舶流失7,303(津波被害)
18. 9. 10	鳥取地震	7.2	鳥取	死者1,083 家屋全壊7,385 半壊6,158 断層(鹿野 吉岡)
19. 12. 7	東南海地震	7.9	静岡・愛知・三重 岐阜・奈良・滋賀	死者 1,223 住家全壊17,599 同半壊36,520 非住家全壊17,347 同半壊24,473 流失3,129 津波
20. 1. 13	三河地震	6.8	愛知南部	死者2,306 住家全壊7,221 同半壊16,555 非住家全壊9,187 同半壊15,127 断層(深藪)
21. 12. 21	南海地震	8.0	中部日本以西	死者1,330 行方不明102 家屋全壊11,591 半壊23,487 流失1,451 浸水33,093 焼失2,598
23. 6. 28	福井地震	7.1	福井・石川・富山	死者3,895 家屋倒壊35,420 半壊11,449 焼失3,691
24. 12. 26	今市地震	6.4	栃木西北	死者8 住家全壊290 半壊2,994 住家全壊583
27. 3. 4	十勝沖地震	8.2	北海道南部・東北	死者28 行方不明5 家屋全壊815 半壊1,324流失91
39. 6. 16	新潟地震	7.5	新潟・秋田・山形	死者26 家屋全壊1,960 半壊6,640 浸水15,297
40. 8. 3	松代群発地震	—	長野市松代周辺	1965. 8. 3~1969. 12までに有感地震62,621回 負傷15 家屋全壊10 半壊4 地滑り 64
43. 2. 21	えびの地震	6.1	宮崎・鹿児島	死者3 負傷者42 家屋全壊368 半壊636
43. 5. 16	十勝沖地震	7.9	北海道南部 東北地方	死者49 行方不明3 負傷者330 家屋全壊673 半壊3,004 津波
48. 6. 17	根室半島地震	7.4	根室半島南東沖	負傷者26 家屋全壊2 浸水275 船舶流出沈没10
49. 5. 9	伊豆半島沖地震	6.9	伊豆半島沖	行方不明29 負傷者78 家屋全壊46 半壊125
53. 1. 14	伊豆大島近海地震	7.0	伊豆半島	死者25 負傷者205 全壊96 半壊616
53. 6. 12	宮城沖地震	7.4	福島・宮城	死者27 負傷者1,105 家屋全壊581 半壊5,180

57. 3. 21	浦河沖地震	7. 1	北海道浦河町沖	負傷者167 家屋全壊13 半壊28 一部損壊678
58. 5. 26	日本海中部地震	7. 7	青森、秋田西方沖	死者104 負傷者324 家屋全壊1,584 半壊3,515 (津波被害大)
59. 9. 14	長野県西部地震	6. 8	長野県西部	死者14 行方不明15 負傷者10 建物全壊14 半壊73 道路損壊258
62. 12. 17	千葉県東方沖地震	6. 7	千葉県	死者2 負傷者138 建物全壊10 一部損壊6万余
平成 5. 1. 15	年釧路沖地震	7. 8	釧路沖	死者1 負傷者928 建物や道路の被害あり
5. 7. 12	北海道 南西沖地震	7. 8	北海道南西沖 奥尻島	死者202 行方不明29 負傷者305 奥尻島南端火災で壊滅状態、津波は青苗で10Mを越えた。
7. 1. 17	兵庫県南部地震 (阪神・淡路大震災)	7. 3	兵庫・大阪	死者6,433 行方不明3 負傷者43,792 建物全壊104,906 半壊144,274
12. 10. 6	鳥取県西部地震	7. 3	鳥取県西部	負傷者182 家屋全壊435 半壊3,101
13. 3. 24	芸予地震	6. 7	安芸灘	死者2 負傷者288 建物全壊70 半壊774
16. 10. . 23	新潟県中越地震	6. 8	新潟県中越	死者68 負傷者4,805 建物全壊3,175 半壊13,808
19. 3. 25	能登半島地震	6. 9	能登半島沖	死者1 負傷者359 建物全壊638 半壊1,563
19. 7. 16	新潟県中越沖地震	6. 8	新潟県上中越沖	死者14 負傷者2,345 建物全壊1,259 半壊5,485
20. 6. 14	岩手・宮城内陸 地震	7. 2	岩手県内陸南部	死者12 行方不明10 負傷者357 建物全壊5 半壊7 一部損壊614
21. 8. 11	駿河湾の地震	6. 5	静岡県駿河湾沖	死者1 負傷者125名 一部損壊5,382
23. 3. 11	東北地方太平洋沖 地震	9. 0	三陸沖	死者15,852 行方不明3,287 負傷者6,011 建物全壊128,716 半壊244,991
25. 4. 13	淡路島地震	6. 3	淡路島付近	住家全壊8 住家半壊101 住家一部破損8,305など
26. 11. 22	長野県神城 断層地震	6. 7	長野県北部	住家全壊77 住家半壊137 住家一部破損1,626など
28. 4. 14	熊本地震	7. 3	熊本県熊本地方	住家全壊3,675 住家半壊34,620 住家一部破損162,346など
28. 10. 21	鳥取県中部地震	6. 6	鳥取県中部	住家全壊18 住家半壊312 住家一部破損15,079など
30. 6. 18	大阪府北部地震	6. 1	大阪府北部	死者5 負傷者454 住家全壊16 住家半壊472 住家一部破損53,751など
30. 9. 6	北海道胆振 東部地震	6. 7	北海道胆振中東部	死者41 負傷者691 住家全壊394 住家半壊1,016 住家一部破損7,555など

資料 10-6

気象庁震度階級

震度	人間	屋内の状況	屋外の状況	木造建物	鉄筋コンクリート 造建物	ライフ ライン	地盤・斜面
0	人は揺れを感じない。						
1	屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。						
2	屋内にいる人の多くが、揺れを感じる。眠っている人の一部が目覚めます。	電灯などのつり下げ物がわずかに揺れる。					
3	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。恐怖感を覚える人もいる。	棚にある食器類が音を立てることがある。	電線が少し揺れる。				
4	かなりの恐怖感があり、一部の人は身の安全を図ろうとする。眠っている人のほとんどが目覚めます。	つり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が倒れることがある。	電線が大きく揺れる。歩いている人も揺れを感じる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。				
5 (弱)	多くの人が身の安全を図ろうとする。一部の人は行動に支障を感じる。	つり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の多くが倒れ、家具が移動することがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。補強されていないブロック塀が崩れることがある。道路に被害が生じることがある。	耐震性の低い住宅では、壁や柱が破損するものがある。	耐震性の低い建物では、壁などに亀裂が生じるものがある。	安全装置が作動し、ガスが遮断される家庭がある。まれに水道管の被害が発生し、断水することがある。 (停電する家庭もある。)	軟弱な地震で亀裂が生じることがある。 山地で落石、小さな崩壊が生じることがある。
5 (強)	非常な恐怖を感じる。 多くの人が行動に支障を感じる。	棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。テレビが台から落ちることがある。タンスなど重い家具が倒れることがある。 変形によりドアが開かなくなることがある。一部の戸が外れる。	補強されていないブロック塀の多くが崩れる。自動販売機が倒れることがある。多くの墓石が倒れる。 自動車の運転が困難となり、停止する車が多い。	耐震性の低い住宅では、壁、柱がかなり破損したり傾くものがある。	耐震性の低い建物では、壁、梁、柱などに大きな亀裂が生じるものがある。 耐震性の強い建物でも、壁などに亀裂が生じるものがある。	家庭などにガスを供給するための導管、主要な水道管に被害が発生することがある。(一部の地域でガス水道の供給が停止することがある。)	

震度	人間	屋内の状況	屋外の状況	木造建物	鉄筋コンクリート 造建物	ライフ ライン	地盤・斜面
6 (弱)	立っていることが困難になる。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。 開かなくなるドアが多い。	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。 耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。	耐震性の低い建物では、壁、柱が破壊するものがある。 耐震性の高い建物でも、壁、梁、柱などに大きな亀裂が生じるものがある。	家庭などにガスを供給するための導管、主要な水道管に被害が発生する。(一部の地域でガス、水道の供給が停止し、停電することもある。)	地割れや山崩れなどが発生することがある。
6 (強)	立っていることができず、はわないと動くことができない。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。 戸が外れて飛ぶことがある。	多くの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。 補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものが多い。 耐震性の高い住宅でも、壁、柱がかなり破損するものがある。	耐震性の低い建物では、倒壊するものがある。 耐震性の高い建物でも、壁、柱が破壊するものがある、かなりある。	ガスを地域に送るための導管、水道の配水施設に被害が発生することがある。(一部の地域で停電する。広い地域でガス水道の供給が停止することがある。)	
7	揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	ほとんどの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。 補強されているブロック塀も破損するものがある。	耐震性の高い住宅でも、傾いたり、大きく破壊するものがある。	耐震性の高い建物でも、傾いたり、大きく破壊するものがある。	(広い地域で電気、ガス、水道の供給が停止する。)	大きな地割れ、地すべりや山崩れが発生し、地形が変わることもある。

資料10-7 マグニチュード (M) と地震の程度

マグニチュード (M)	地震の程度	過去の主な地震
9より上	<ul style="list-style-type: none"> 9.5を超えた規模の地震は実測でも地質調査でも確認されていない。 	チリ地震 (9.5) (昭35.5.23)
8.5~9	<ul style="list-style-type: none"> 最大級の地震 全世界を通じて、10年に1回しか起こらない。 	スマトラ沖地震 (9.0) (平16.12.26) 東北地方太平洋沖地震 (9.0) (平23.3.11)
8~8.5	<ul style="list-style-type: none"> 第1級の大地震 内陸に起こると大被害 海底に起こると大津波 日本付近で10年に1回位発生 	濃尾地震 (8.0) (明24.10.28) 三陸沖地震 (8.1) (昭8.3.3) 南海地震 (8.1) (昭21.12.21) 十勝沖地震 (8.1) (昭27.3.4) 四川省大地震 (8.0) (平20.5.13)
7~8	<ul style="list-style-type: none"> かなりの大地震 内陸に起こると大被害を生ずることがある。 海底に起こると津波を伴う。 日本付近で1年に1回位発生 	関東地震 (7.9) (大12.9.1) 東南海地震 (7.9) (昭19.12.7) 福井地震 (7.1) (昭23.6.28) 新潟地震 (7.5) (昭39.6.16) 1978年伊豆大島近海の地震 (7.0) (昭53.1.14) 平成5年釧路沖地震 (7.8) (平5.1.15) 平成5年北海道南西沖地震 (7.8) (平5.7.12) 兵庫県南部地震 (7.3) ※ (平7.1.17) 岩手・宮城内陸地震 (7.2) (平20.6.14)
6~7	<ul style="list-style-type: none"> 内陸に起こると (特に震源が浅いとき) 被害を生ずることがある。 日本付近で1年に10回位発生 	三河地震 (6.8) (昭20.1.13) 新潟県中越地震 (6.8) (平16.10.23) 新潟県中越沖地震 (6.8) (平19.7.16)
4~6	<ul style="list-style-type: none"> 被害が生ずることは、ほとんどない。時々感じる地震の大部分はこの程度のもの。 日本付近で1年に100回位発生 	
3~4	<ul style="list-style-type: none"> 震源地の近くで人体に感じることもある。 	
2以下	<ul style="list-style-type: none"> 高倍率の地震計によって観測される。 	
マイナス	<ul style="list-style-type: none"> 超高感度の地震計によって、とくに条件の良い場所だけ観測できる。 	

(注) 1 過去の地震については、理科年表による。

(注) 2 ※印の地震については、気象庁発表による。

資料 10-8 犬山市防災アセスメントの概要（平成14年1月）

1 木造家屋密集地域

表1に構造・建築年代別の建築面積、棟数及び1棟あたりの建築面積を示す。犬山市における木造建物の建築面積は2,247,966m²、総数は32,197棟、一棟あたりの建築面積は70m²である。非木造建物の建築面積は2,498,421m²、総数は11,020棟、一棟あたりの建築面積は227m²である。構造別に比較すると、一棟あたりの床面積に3倍以上の差が見られる。

犬山市西部の市街地は木造建物が密集しており、特に犬山北地区及び犬山南地区での木造棟数密度が高く、犬山市駅西部に位置する犬山字東古券、南古券、木ノ下付近では1haあたり50棟以上にもものぼる。このような木造密集地域では、火災等の災害に対して充分留意する必要がある。

2 老朽建物又は耐震性の低い建物の多い地域

年代別に比較すると、木造建物では昭和26年以前のもものが1/4以上を占めている。

一方、非木造建物は、昭和57年以降のもものが半数近くを占めている。老朽木造建物の密集地域は、犬山北地区・犬山南地区をはじめとする市街地であり、特に犬山字東古券、西古券、南古券、木ノ下において老朽木造建物が多い。

表1 構造・建築年別建築面積、棟数及び一棟あたりの建築面積

建築年	木造			非木造		
	建築面積 (m ²)	棟数 (棟)	一棟あたり の建築面積 (m ²)	建築面積 (m ²)	棟数 (棟)	一棟あたり の建築 面積(m ²)
S26以前	398,786	8,237	48	17,171	101	17
S27-36	87,722	1,723	51	6,006	43	140
S37-46	363,455	5,559	65	493,063	1,943	255
S47-56	600,626	8,115	74	530,650	3,101	171
S57-	797,377	8,563	93	1,451,532	5,832	249
合計	2,247,966	32,197	70	2,498,421	11,020	227

(固定資産税家屋情報 平成13年1月1日付)

3 延焼阻止要因

延焼阻止要因として下記の項目を抽出し、延焼の危険性が高い老朽木造建物密集地域(昭和46年以前の棟数密度が20棟/ha以上)の分布状況と比較を行った。

①幅員15m以上の道路

②主要河川

老朽木造建物及び幅員15m以上の道路、主要河川は、主に犬山市西側に集中している。犬山駅、犬山口から木曾川にかけての老朽木造建物密集地域は市内でも最も広い範囲で分布しており、河川、道路が走っていないため、延焼の危険性が高く、注意が必要である。

4 建物の被害想定結果

建物被害の想定結果を表2に示す。被害状況は、木造建物の全壊棟数が3,051棟(9.5

%)、非木造建物の全壊棟数が160棟(1.5%)、全建物の全壊棟数が3,211棟(7.4%)である。構造別に被害状況を見ると、地区内に存在する木造建物と非木造建物の比率を考慮すれば、前者の被害棟数が非常に高い値で算出されていることが分かる。

地区別に被害率を比較すると、震源に近い市北西部に位置する地区での被害が目立つ。特に木津・上野地区では、全建物の被害率が11.6%(木造建物の被害率が14.7%、非木造建物の被害率が2.5%)で最も高い値を示している。次いで橋爪・五郎丸地区、栗栖・継鹿尾地区、犬山南地区が高い被害率となっている。

木造全壊棟数及び非木造全壊棟数では、震源に近く、老朽建物が多い地域で顕著な被害が見られ、特に、犬山字東古券、西古券では木造全壊棟数が100以上の被害が想定されている。

表2 建物の被害想定結果

地区名	木造建物			非木造建物			全建物		
	棟数	全壊棟数	全壊率 (%)	棟数	全壊棟数	全壊率 (%)	棟数	全壊棟数	全壊率 (%)
犬山(北)	4696	456	9.7	962	25	2.6	5658	481	8.5
犬山(南)	2044	242	11.8	565	14	2.5	2609	256	9.8
犬山(東)	1548	180	11.6	866	9	1.0	2414	189	7.8
橋爪・五郎丸	3367	401	11.9	1120	22	2.0	4487	423	9.4
木津・上野	2099	309	14.7	724	18	2.5	2823	327	11.6
羽黒・羽黒新田	5870	560	9.5	2238	26	1.2	8108	586	7.2
楽田	5730	417	7.3	2132	24	1.1	7862	441	5.6
栗栖・継鹿尾	355	41	11.5	115	2	1.7	470	43	9.1
富岡・善師野	1650	105	6.4	487	3	0.6	2137	108	5.1
塔野地・前原	3144	304	9.7	1258	17	1.4	4402	321	7.3
今井	808	16	2.0	237	0	0.0	1045	16	1.5
池野	886	20	2.3	316	0	0.0	1202	20	1.7
合計	32197	3051	9.5	11020	160	1.5	43217	3211	7.4

5 出火被害想定結果

火災被害の想定結果を表3に示す。地震による出火件数は、平日冬6時に犬山(南)地区で1件、犬山(北)地区で3件、合計4件、平日冬17時に犬山(南)地区で1件、犬山(北)地区で8件、木津・上野地区で1件、合計10件である。

出火件数は、建物被害の想定結果において被害率の高い箇所と一致しており、特に犬山字東古券では、複数の出火が想定される。

表3 火災の被害想定結果

地区名	建物棟数	平日冬6時		平日冬17時	
		出火件数	被害率 (%)	出火件数	被害率 (%)
犬山（北）	5,658	3	0.05	8	0.14
犬山（南）	2,609	1	0.04	1	0.04
犬山（東）	2,414	0	0.00	0	0.00
橋爪・五郎丸	4,487	0	0.00	0	0.00
木津・上野	2,823	0	0.00	1	0.04
羽黒・羽黒新田	8,108	0	0.00	0	0.00
楽田	7,862	0	0.00	0	0.00
栗栖・継鹿尾	470	0	0.00	0	0.00
富岡・善師野	2,137	0	0.00	0	0.00
塔野地・前原	4,402	0	0.00	0	0.00
今井	1,045	0	0.00	0	0.00
池野	1,202	0	0.00	0	0.00
合計	43,217	4	0.01	10	0.02

6 人的被害想定結果

人的被害の想定結果を表4、表5に示す。犬山市全体の被害状況は、平日冬6時に地震が発生した場合、死者192人（死亡率0.3%）、重傷者173人、全負傷者9,747人（全負傷者率13.5%）であり、平日冬17時に地震が発生した場合、死者150人（死亡率0.2%）、重傷者134人、全負傷者9,422人（全負傷者率13.1%）である。

発生時刻について比較すると、地区により若干の違いはあるものの、概ね平日冬6時に設定した場合に、被害が大きくなっている。地区別では、死者は羽黒・羽黒新田地区（36人）、犬山(北)地区（29人）に多く、負傷者は、地区内人口の多い羽黒・羽黒新田地区（1,878人）、楽田地区（1,917人）で2,000人近い被害が予想される。

小字単位での人的被害の想定結果では、震源地に近い地域に人的被害が目立ち、建物被害及び火災被害と同様の傾向を示しており、人的被害は建物被害に大きく依存している。一方、地震発生時刻（平日冬6時、平日冬17時）による被害規模については、顕著な差が見られない。

なお、犬山北地区等では、人的被害の想定結果が建物被害のものとは比べ高い値で算出されている。

※ 負傷者数

本被害想定では、内閣府の地震被害想定支援ツールを用いて被害量を算出し、とりまとめているが、このツールでは負傷者数が非常に大きくなる傾向がある。犬山市全体の死者数と全負傷者数を比較すると、死者数に対し全負傷者数は50倍以上となっている（阪神・淡路大震災では7倍程度）。

表4 人的被害の想定結果（平日冬6時）

地区名	人口	死者数	死者率 (%)	負傷者		
				重傷者	全負傷者	全負傷者率 (%)
犬山（北）	5104	29	0.6	26	1004	19.7
犬山（南）	4524	15	0.3	13	530	11.7
犬山（東）	8202	12	0.1	10	615	7.5
橋爪・五郎丸	7359	26	0.4	23	972	13.2
木津・上野	5240	19	0.4	18	541	10.3
羽黒・羽黒新田	15716	36	0.2	33	1878	11.9
楽 田	12129	25	0.2	24	1917	15.8
栗栖・継鹿尾	499	3	0.6	3	170	34.1
富岡・善師野	4029	7	0.2	6	533	13.2
塔野地・前原	7408	18	0.2	16	1163	15.7
今 井	929	0	0.0	0	174	18.7
池 野	990	2	0.2	1	250	25.3
合 計	72129	192	0.3	173	9747	13.5

※ ただし、全負傷者については、重傷者数の他に軽傷者数が含まれる。

表5 人的被害の想定結果（平日冬17時）

地区名	人口	死者数	死者率 (%)	負傷者		
				重傷者	全負傷者	全負傷者率 (%)
犬山（北）	5104	28	0.5	27	1185	23.2
犬山（南）	4524	14	0.3	13	613	13.5
犬山（東）	8202	8	0.1	7	500	6.1
橋爪・五郎丸	7359	15	0.2	14	705	9.6
木津・上野	5240	16	0.3	15	600	11.5
羽黒・羽黒新田	15716	21	0.1	19	1320	8.4
楽 田	12129	29	0.2	25	2820	23.3
栗栖・継鹿尾	499	1	0.2	1	94	18.8
富岡・善師野	4029	4	0.1	4	443	11.0
塔野地・前原	7408	14	0.2	9	897	12.1
今 井	929	0	0.0	0	109	11.7
池 野	990	0	0.0	0	136	13.7
合 計	72129	150	0.2	134	9422	13.1

※ ただし、全負傷者については、重傷者数の他に軽傷者数が含まれる。

7 ライフライン被害の想定

地震災害は地盤災害といわれるように、地形・地盤条件の影響を極めて大きく受ける。軟弱地盤とされる地域においては、次のような被害が想定される。

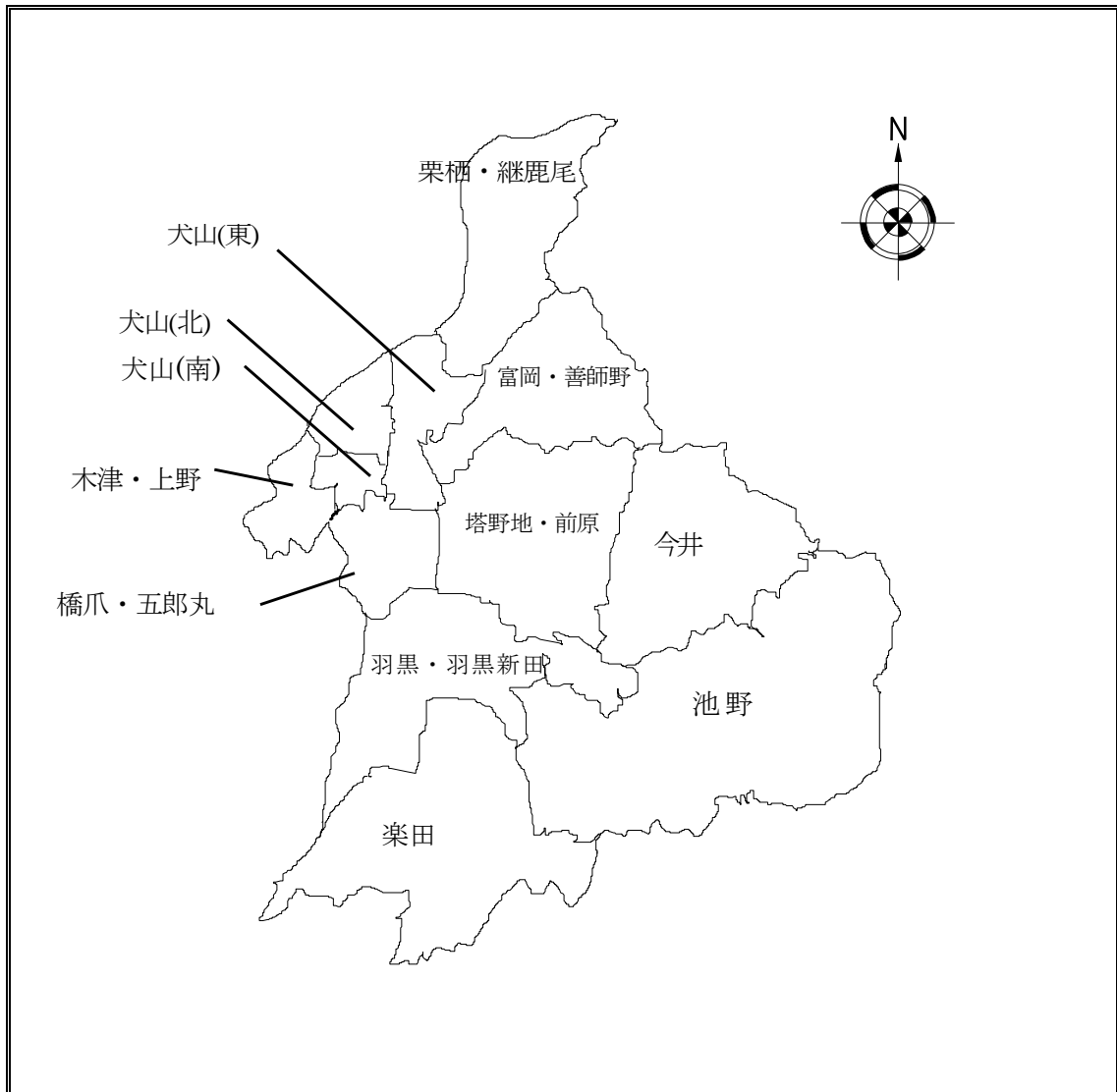
- ・他の地形より強く揺れるため、被害が大きくなる。
- ・地震時に大きく変位しやすく、地盤内に埋設された線状構造物の被害が大きくなる。
- ・変位の少ない地盤との境界で相対変位が大きくなり、被害が集中する。
- ・地盤の沈下により被害が生じる。

また、このような地域では、地盤の液状化の危険性が高い。液状化現象は、平常時に安定していた地盤が、地震時に液体のようにゆるんで動くことであり、噴砂、噴泥により地盤の盛り上がりや陥没を生じる。このため、次のような被害が生じるおそれがある。

- ・地中のガス管・上下水道管・地下タンクなどの軽量構造物の浮上
- ・深い基礎のない建物、橋台などの重量構造物の沈下・傾斜
- ・堤防沈下
- ・盛土の基礎地盤の液状化に伴って、盛土に発生するすべりによる水平方向の変位とそれによる施設の被害
- ・地盤内の変位残留による地中構造物の被害
- ・護岸や擁壁の押し出し
- ・沈下地盤と堅ろう構造物の境界付近での配管類等の被害

犬山市内のライフライン施設では、前原地区など東西方向に伸びる施設が軟弱地盤を通過するため、他の地域に比べ、大規模地震の際には被害が生じるおそれが高い。また、南北方向に走っている施設は概ね砂礫台地上にあるが、一部に台地上にある浅い谷や盛土地が見られ、そのような箇所では、被害が生じるおそれがある。

犬山市 12 地区 割 図



資料 10-9 犬山市に影響のあった主な台風・水害

1 昭和29年 豪雨

1954年（昭和29年）7月30日、犬山市から名古屋市北西部に至る線上に200mmを超える豪雨が短時間降った。この豪雨により、成沢川の氾濫、虎熊の溜池等の被害が起こった。これにより、周辺の田畑の流失、山崩れなどの被害があった。

愛知県の被害状況は、死者3人、負傷者1人、全壊家屋15戸、浸水6,870戸であった。

犬山市の被害状況は、死者3人、負傷者1人、全壊家屋5棟、半壊家屋11棟、流失家屋3棟であった。（池野地区）

2 伊勢湾台風（台風第15号）

伊勢湾台風は、昭和34年9月21日、マリアナ諸島の東にあった弱い熱帯性定気圧が急速に発達してできた。22日15時にはサイパン島の北東約150kmの海上で970hPaの中心気圧を記録している。その後、さらに発達して中心気圧は894hPaになり、最大風速は75.0m/sの超大型台風になっていた。26日18時過ぎに、潮岬の西、約15kmに上陸した。上陸時は、929.5hPaという内地陸上では3番目に低い気圧を記録した。21時過ぎの名古屋港地方気象台の記録では、最大瞬間風速45.7m/s、最大風速37.0m/sだった。名古屋港の最高潮位は、5.8mまで達した。台風到来による激しい雨のため、各地では、河川の増水、それに伴う堤防の決壊が目立った。死者及び家屋の被害は、高潮によるものが多く、臨海部に被害が集中した。

愛知県の被害状況は、死者3,168人、行方不明者92人、負傷者59,045人、全壊家屋23,334棟、流失家屋3,194棟、半壊家屋97,049棟、一部破損287,059棟、床上浸水53,560棟、床下浸水62,831棟であった。

犬山市の被害状況は、死者5人、負傷者124人、全壊家屋170棟、半壊家屋641棟、床下浸水31棟であった。（愛知県災害誌）

3 台風20号

1972年（昭和47年）9月16日～17日、潮岬付近に上陸した台風は、紀伊半島を縦断し、富山市方面に進んだ。被害は降雨によるものよりも、風・高潮・高波によるものが多く、平野部では塩害も発生した。

愛知県の被害状況は、死者2人、負傷者106人、全壊家屋86棟、半壊家屋709棟、一部破損17,067棟、床上浸水1,039棟、床下浸水5,395棟、被害総額約190億円であった。

犬山市の被害状況は、半壊家屋3棟、一部破損19棟であった。

4 昭和49年 大雨

1974年（昭和49年）7月24日～25日、低気圧の通過により愛知県下では大雨が降った。これにより、尾張・海部・知多を中心に各地で土砂崩れ・がけ崩れ・中小河川の氾濫・堤防の決壊などの被害があった。

愛知県の被害状況は、死者1人、負傷者7人、全壊家屋7棟、半壊家屋47棟、一部破損45棟、床上浸水7,248棟、床下浸水74,035棟、被害総額約92億円であった。

犬山市の被害状況は、床下浸水154棟であった。

5 昭和51年 台風17号

1976年（昭和51年）9月8日～13日、大型の台風とそれに伴う前線の影響で、愛知県西部には40～80mm/hの強雨があった。長良川上流から濃尾平野西部の多くの地域では、総雨量が300mmを超した。この集中豪雨により愛知県内各地で中小河川の破堤・氾濫、ため池の決壊による家屋浸水、山崩れ、突風等の被害があった。

愛知県の被害状況は、死者1人、負傷者37人、全壊家屋14棟、半壊家屋437棟、一部破損461棟、床上浸水13,050棟、床下浸水102,677棟、被害総額378億円であった。

犬山市の被害状況は、床上浸水8棟、床下浸水227棟、道路破損14ヶ所、崖崩れ（内田地区ほか）8ヶ所であった。

6 昭和58年 台風10号

9月20日21時グアム島の南南西約280kmの海上で発達した台風10号は、28日10時20分頃、長崎市付近に上陸した。そのときの勢力は、中心気圧975hPa、最大風速30m/sである。台風10号は上陸後弱まりながら九州中部を横断して、15時には高知県宿毛市付近で温帯低気圧となった。

愛知県下では、数日前から秋雨前線の影響で雨が降っていたが、台風10号の接近により前線が活発化した。そのため、27日から本格的な雨となり、28日には午後には、名古屋市を中心とする県西部で、1時間60～80mmという集中豪雨を伴う大雨になった。

愛知県の被害状況は、死者5人、負傷者1人、全壊家屋2棟、半壊家屋1棟、床上浸水762棟、床下浸水16,974棟であった。

犬山市の被害状況は、豪雨により木曾川上流（栗栖地区）が越水して、床上浸水9棟、床下浸水12棟、木曾川緑地等への浸水の被害が報告されている。

7 平成3年 台風18号

台風18号の接近に伴い、秋雨前線が活発になった。その影響で、東海地区も含めた太平洋岸各地は記録的な大雨が降った。名古屋では日雨量217.5mmを記録した。大雨により河川が溢水し、浸水被害が多発した。

愛知県の被害状況は、死者2人、負傷者1人、全壊家屋2棟、一部破損9棟、床上浸水3713棟、床下浸水12,131棟、被害総額67億円であった。

犬山市の被害状況は、一部破損2棟、床下浸水45棟であった。

8 平成10年 台風7・8号

9月20日に日本の南海上で発生した台風8号は、21日16時前頃、和歌山県南西部(田辺市付近)に上陸した。更に、これより1日遅れて台風7号が和歌山県北部(御坊市付近)に上陸した。

台風8号は、始め勢力の弱い台風だった。ところが21日夜から風雨が強くなり、愛知県東部では40~60mm/hの雨が降った。一方、22日に上陸した台風7号は、中型で強い勢力を保ったまま、北陸に進んだ。台風が愛知県の西方を進む頃には、県内で暴風が吹き荒れた。名古屋での最大瞬間風速は、22日16時19分に観測した南南東の風42.6m/sであった。この記録は、伊勢湾台風(1959年)に継ぐ歴代2位の記録である。

愛知県の被害状況は、死者3人、負傷者151人、全壊家屋8棟、半壊家屋35棟、一部破損661棟、床上浸水8棟、床下浸水138棟であった。

犬山市の被害状況は、負傷者2人、半壊家屋4棟、一部破損7棟であった。

9 平成12年9月 東海豪雨

台風14号の影響により、暖かく湿った空気が本州上空に停滞していた秋雨前線に流れ込んだ。このため東海地方から四国地方にかけて、大気の不安な状態が続いた。特に東海地方では上空に寒気が流れ込み地上の暖かく湿った空気とぶつかり積乱雲が次々に発生した。更に台風の動きが遅く、高気圧縁辺に吹く風が入りつづけたため、11日から12日にかけて、愛知県では名古屋市、尾張東部、足助、設楽北部を中心に記録的な豪雨となった。

県内各地の被害は、河川が破堤20箇所、越水315箇所に達し、広範囲にわたって浸水被害が発生した。平成12年東海豪雨の浸水被害は、昭和34年の伊勢湾台風と並ぶ大規模なものであった。山崩れや崖崩れ等の土砂災害は尾張北部や足助北部および設楽北部を中心に発生した。犬山市の倉曾洞地区では工場が全壊するとともに2次被害を防止するため避難勧告が8日間出された。先述以外にも、道路の損壊・冠水、農地の流出、埋没、冠水、鉄道等の不通や電気、ガスの供給停止等が多数発生し、住民の生活や産業活動に多大な影響を及ぼした。

愛知県の被害状況は、死者7人、負傷者107人、全壊家屋18棟、半壊家屋156棟、一部破損147棟、床上浸水22,077棟、床下浸水40,401棟であった。

犬山市の被害状況は、負傷者7人、全壊家屋1棟、半壊家屋2棟、一部破損2棟、床上浸水5棟、床下浸水41棟、道路損壊33箇所、崖崩れ54箇所(人家被害が5箇所で発生)、土砂災害による避難勧告等が発せられ、2地区計158人が避難した。

10 平成22年7月15日・16日 集中豪雨

7月10日に本州の南海上にあった梅雨前線は、11日には本州付近を北上し、その後、16日にかけて本州上から日本海沿岸付近に停滞した。この前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、東海地方や長野県を中心に大雨となった。

7月11日0時から7月16日6時までの総降水量(アメダス地点)は、長野県王滝村御嶽山で572.0ミリ、岐阜県下呂市萩原では7月の月間降水量平年値の1.5倍近くにあたる566.0ミリ、愛知県豊根村茶臼山で376.5ミリなど、長野県、岐阜県、愛知県、静岡県で300ミリを超える雨となった。24時間降水量は、岐阜県八百津町伽藍で15日23時30分までに観測史上1位の値を更新する239.0ミリを観測した。また、東海地方や長野県を中心に非常に激しい雨が降り、岐阜県多治見市多治見では7月15日19時12分までの1時間に観測史上1位の値を更新する83.5ミリの猛烈な雨を観測した。

犬山市では、15日19時から20時の間に64ミリもの猛烈な雨が降り、総雨量(今井)で186ミリの降雨となった。また、被害状況は、新郷瀬川が氾濫危険水位を50cmを超える3.91mとなり、河川浸水被害が出た。床上浸水5棟、床下浸水20棟、道路損壊等20箇所・河川用水被害57箇所であった。今井地区237世帯895人に避難指示を発令し、避難勧告も5地区861

世帯 1,635 人に発令し、避難所を 12 箇所開設し、計 210 人が避難した。

11 平成 23 年 8 月 23 日 大雨

8月22日から23日にかけて本州付近には前線が停滞しており、前線に向かって南からの暖かく湿った空気が流れ込み、前線付近では大気の状態が不安定となった。このため、所々で活発な積乱雲が発達し非常に激しい雨となった。

愛知県では、22日夜遅くから23日未明にかけて、尾張西部と尾張東部の一部で雷を伴う非常に激しい雨が降り、23日0時から1時までの1時間に一宮市付近で約100ミリ、0時30分から1時30分までの1時間に一宮市、江南市、扶桑町付近で約100ミリの猛烈な雨となった。

犬山市では、23日1時から2時の間に80ミリもの猛烈な雨が降り、総雨量（犬山）で146ミリの降雨となった。また、被害状況は、床上浸水1棟、床下浸水8棟、道路損壊・法面崩れ12箇所、北部で停電も発生し、各地で道路冠水も発生した。

12 平成 23 年 9 月 台風第 12 号

8月25日9時にマリアナ諸島の西の海上で発生した大型の台風第12号は、発達しながらゆっくりとした速さで北上し、29日21時には中心気圧が970ヘクトパスカル、最大風速が25メートルとなった。

台風は、30日に小笠原諸島付近で進路を北西に変え、9月2日には勢力を保ったまま四国地方に接近、3日10時頃に高知県東部に上陸した。その後も、台風はゆっくりと北上を続け、四国地方、中国地方を縦断し、4日未明に日本海に進んだ。

台風が大型で、さらに台風の動きが遅かったため、長時間台風周辺の非常に湿った空気が流れ込み、西日本から北日本にかけて、山沿いを中心に広い範囲で記録的な大雨となった。

特に紀伊半島では、8月30日17時からの総降水量は広い範囲で1,000ミリを超え、奈良県上北山村にあるアメダスでは72時間雨量が1,652.5ミリとこれまでの国内の観測記録である1322ミリ（宮崎県神門（みかど））を大幅に上回り、総降水量は1808.5ミリに達し、一部の地域では解析雨量で2,000ミリを超えるなど、記録的な大雨となった。

このため、土砂災害、浸水、河川のはん濫等により、和歌山県、奈良県、三重県などで多数の死者、行方不明者が発生したほか、北海道から四国にかけての広い範囲で床上床下浸水などの住家被害、田畑の冠水などの農林水産業への被害、鉄道の運休などの交通障害が発生した。

犬山市では、翌日より協定締結先である和歌山県新宮市と田辺市に対し、物的支援と給水車を使用した給水支援等人的支援を行った。

13 平成 23 年 9 月 台風第 15 号

9月13日21時に日本の南で発生した台風第15号は、日本の南海上を北西に進み、16日から19日にかけて南大東島の近海で停滞した後、19日21時に奄美大島近海で強い勢力となった。その後、進路を北東に変えて次第に速度を速め、20日夜遅くには四国の南海上に達し、非常に強い勢力となりました。21日にはさらに速度を速めて東海道沖を北東に進み、強い勢力を維持しながら14時頃に静岡県浜松市付近に上陸した。台風は、その後も勢力を維持しながら関東地方を縦断し、同日夜遅くに関東の東海上に抜けた後、22日9時には根室市の東に達した。

台風が九州の南を北東に進んでいた20日日中、日本付近に停滞する前線に向かって暖かく湿った空気が流入し、尾張東部を中心に大雨となった。また、台風が愛知県に接近した21日日中、東三河北部・西三河北東部を中心に大雨となり、沿岸部では非常に強い風が吹いた。

犬山市では、20日14時から15時の間に64ミリもの猛烈な雨が降り、総雨量（今井）で218ミリの降雨となった。また、被害状況は、床下浸水1棟、土砂崩れ等13箇所、法面崩れ2箇所、道路冠水4箇所、木曾川増水の為木曾川犬山緑地グラウンドや野外活動センター公共施設被害のほか、倒木も発生した。避難所は16箇所を開設し計9名が自主避難した。

14 平成29年7月 大雨

7月14日00時から15時までの15時間積算降雨量（解析雨量）は、犬山市、小牧市、扶桑町、大口町付近で約150ミリを超える大雨となった。

県内では太平洋高気圧の縁を回った南からの暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となり、14日未明から夕方にかけて県内各地で雨となった。特に尾張東部と尾張西部、東三河北部で大雨となった。

雨は未明に西三河南部で降り出し、新城市付近では14日5時までの1時間に約45ミリの激しい雨を解析した。尾張北部、尾張西部でも14日未明から雨が降り出し、昼前には猛烈な雨となった。犬山市、小牧市付近では、14日10時40分までの1時間に約120ミリの猛烈な雨を解析し、記録的短時間大雨情報を発表した。

犬山市では、全地域の土砂災害の恐れのある地域及び、河川越水の恐れのある地域に避難指示を発令した。

犬山市の被害は、道路被害71件、農業施設被害86件、道路冠水27件、河川越水4件、土砂崩れ28件、床上浸水3件、床下浸水31件。

15 平成29年8月 大雨

8月18日00時から19日04時までの28時間積算降雨量（解析雨量）は、犬山市付近や、春日井市付近で約200ミリを超える大雨となった。

県内では、南から暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となり、18日明け方から19日未明にかけて県内各地で雨となった。

雨は尾張東部では、18日朝から昼前にかけて非常に激しい雨が降り、夜遅くには猛烈な雨の降った所があった。また、尾張西部でも18日夜のはじめ頃から夜遅くにかけて猛烈な雨の降った所があった。犬山市付近では、18日22時10分までの1時間に約100ミリの猛烈な雨を解析し、記録的短時間大雨情報を発表した。

犬山市の被害は、道路被害48件、農業施設被害54件、道路冠水20件、河川越水2件、土砂崩れ15件、床上浸水3件、床下浸水13件。

16 平成30年9月 台風第21号

8月28日にマーシャル諸島近海で発生した台風第21号は、日本の南を北西に進み、9月4日12時に徳島県南部に上陸した。上陸時の中心気圧は950hPa、最大風速は45m/sで非常に強い勢力のまま上陸するのは1993年の台風13号以来25年ぶりとなった。同日14時前には兵庫県神戸市付近に再び上陸し、速度を上げながら近畿地方を縦断、日本海を北上して温帯低気圧に変わった。台風の接近や通過により、西日本から北日本にかけて非常に強い風が吹くとともに非常に激しい雨が降った。

この台風第21号の影響により、各地で大雨となり、3日00時から5日24時までの総降水量は、東海地方から甲信地方の山沿いを中心に解析雨量（72時間積算）では300ミリを超え、静岡県と山梨県で500ミリを超えた所があり、アメダスでは、愛知県茶臼山で378.5ミリを観測した。1時間降水量は、解析雨量では静岡県富士宮市付近で1時間に120ミリ以上（4日17時40分）の猛烈な雨、アメダスでは、三重県小俣で81.0ミリ（4日22時40分）の猛烈な雨を観測した。愛知県茶臼山では73.5ミリ（5日23時37分）の非常に激しい雨を観測し、統計開始以来の極値を更新した。

台風の接近に伴い風も強まり、最大風速は愛知県セントレアで31.5m/s（南南東、4日14時22分）の猛烈な風を観測した。最大瞬間風速は福井県敦賀で47.9m/s（東南東、4日15時00分）を観測し統計開始以来の極値を更新したほか、愛知県セントレアで46.3m/s（南南東、4日14時17分）を観測した。

犬山市では、4日14時から17時の3時間の間に楽田地区で32ミリ、最大瞬間風速は南南東の風39.8m/sを観測した。被害状況は、人的被害1件、倒木等による道路被害110件、停電7900戸であった。

資料 10-10 入鹿切れ

入鹿池は、犬山市の南部に位置する日本最大級の灌漑用の溜池である。当時、入鹿の地形を利用し台地の開発を目的として入鹿池は作られた。ところが明治元年の大雨により入鹿池が決壊し、周辺の地域に多大な被害をもたらした。

明治元年4月の中旬に降り始めた雨は、5月まで続いた。入鹿池の水深は最大18mまでに達し、5月14日午前3時に河内屋堤が決壊した。多量の降雨による入鹿堤の決壊は、丹羽郡（現在の犬山市・江南市・扶桑町・大口町・一宮市の一部）を中心に約62カ村に多大な被害を与え、浸水地域は120カ村にまで及んだ。入鹿池の決壊による被害は、死者941人、負傷者1,471人、流失家屋807戸、浸水家屋11,709戸、流没耕地約8,400ha（犬山市史）と記録されている。

入鹿池決壊による被害の想定

被害区域	被害程度%			被災総面積	被災人口	被災戸数	要避難人口
	田	畑	家屋				
羽黒、楽田池野地区	20%	10%	15%	370ha	7,000人	2,000戸	7,500人

資料 10-11 東海地震・東南海地震等被害予測調査の概要

(愛知県調査結果)

愛知県東海地震・東南海地震等被害予測調査は、平成4年度から3年間かけて実施した調査から10年近くが経過し、その間に、①高齢化や高度情報化等によって社会環境が大きく変化したこと、②活断層調査、地下構造調査により地下構造や地盤構造についての新しいデータが蓄積されたこと、③阪神・淡路大震災の発生、東海地震の震源域の見直しや震度分布の公表、東南海地震の発生確率や震度分布の公表など地震に関する最新の知見が示されたこと等の理由により、最新の情報や手法を利用した調査を実施し、今後の本県における地震防災対策の基礎資料を得ることを目的としている。

調査は、平成14年度、平成15年度の2ヶ年で計画しているが、このたび、平成14年度に実施した「想定地震に基づく被害想定」の結果がまとまったので、その概要を下記に示す。

なお、平成15年度は、危険度の予測、災害シナリオの作成、被害予測システムの構築を予定している。

＝被害予測調査の前提条件＝

想定地震

海溝型地震：「東海地震」、「東南海地震」、「東海地震・東南海地震の連動」

内陸型地震：「養老－桑名－四日市断層帯」

発生時間帯

冬早朝 5時（阪神・淡路大震災と同じ時間帯）

春秋昼12時（市街地で人口が多い平日の時間帯）

冬夕刻18時（出火危険性が高く、帰宅ラッシュの時間帯）

調査単位

市町村又は500mメッシュ（津波は、沿岸及び陸域は50mメッシュ）

① 建物被害（全壊棟数） ※火災は冬18時の焼失棟数 (単位：棟)

	揺れ	液状化	津波	山崖崩れ	火災	合計
東海	約7,200	約4,900	約10	約990	約2,400	約16,000
東南海	約47,000	約13,000	約10	約2,000	約15,000	約77,000
東海・東南海 地震連動	約81,000	約16,000	約60	約3,000	約49,000	約150,000
養老－桑名－ 四日市断層帯	約2,400	約7,100		約180	約70	約9,800

【参考】愛知県の現況建物数：約2,400,000棟

※ 以下①建物被害～⑥生活・経済機能支障まで東海地震の数値は予知なしの場合

② 人的被害（最大の被害となる冬5時の被害）（単位：人）

	死者	負傷者	要救助者	合計
東海	約270	約12,000	約2,800	約15,000
東南海	約1,300	約47,000	約14,000	約62,000
東海・東南海 地震連動	約2,400	約66,000	約23,000	約91,000
養老－桑名－ 四日市断層帯	約70	約4,000	約790	約4,900

③ 帰宅困難者数（昼12時の場合）

（1）突発的に地震が発生した場合 最大約980,000人

（2）東海地震の警戒宣言発令時 最大約360,000人

④ ライフライン被害 ※すべて最大となる数値を記載している。

項目	想定被害	東海地震	東南海地震	東海・東南海 地震連動	養老－桑名 四日市断層帯
上水道（断水需要家数）（戸）		約340,000	約1,100,000	約1,500,000	約260,000
都市ガス （供給停止需要家数）（戸）		約52,000	約490,000	約930,000	約170
LPガス （要点検需要家数）（戸）		約29,000	約92,000	約130,000	約15,000
電力（停電数）（契約口数）		約140,000	約530,000	約640,000	約180,000
一般電話 （通話機能支障数）（件）		約23,000	約150,000	約220,000	約33,000
下水道（機能支障人口）（人）		約23,000	約60,000	約80,000	約37,000

⑤ 交通施設被害（道路、鉄道、港湾、空港施設）

○ 東海地震

主に東三河に被害が限定され、豊橋市や渥美半島、東三河の山間部を中心とする一部の地域では陸上輸送に支障が生じる。また、東三河の多くの港湾・漁港が利用困難となるが、耐震強化岸壁は利用可能である。土砂災害等の影響により東三河北部の山間地が孤立する可能性が高い。

○ 東南海地震

知多半島及び渥美半島を中心に全県的に被害が発生し、両半島では陸上輸送に支障が生じる。知多半島では大部分の港湾・漁港が被害を受け、半島南部及び島部が孤立する可能性が高い。三河の多くの港湾・漁港でも被害が発生するが、耐震強化岸壁は利用可能である。

○ 東海地震・東南海地震連動

知多半島及び渥美半島三河湾沿岸部を中心に全県的に被害が発生し、名古屋市等の尾張南部も震度6強となるため、これらの地域では陸上輸送に支障が生じる。

耐震強化岸壁は利用可能であるが、全県的に多くの港湾・漁港が利用困難となるため、知多半島及び渥美半島西部、島部が孤立する可能性が高い。土砂災害等の影響により東三河北部の山間地が孤立する可能性が高い。

○ 養老－桑名－四日市断層帯

主に尾張西部に被害が限定され、海部部の周辺地域での陸上輸送に支障が生じる。名古屋港の一部の岸壁が利用困難となる他は大きな支障は生じないが、木曾川等の河川堤防が被害を受けて海水が流入した場合には、被災地周辺の低地部の陸上輸送が困難となる可能性がある。

⑥ 生活・経済機能支障 ※すべて最大となる数値を記載している。

項 目 \ 想定被害	東海地震	東南海地震	東海・東南海地震連動	養老－桑名 四日市断層帯
日常受療困難者数 ※1	約12,000人	約42,000人	約69,000人	約11,000人
避難所生活者数	約160,000人	約520,000人	約780,000人	約130,000人
応急仮設住宅世帯数 ※2	約3,500世帯	約17,000世帯	約32,000世帯	約2,700世帯
食料不足量	—	約400,000人分	約720,000人分	—
給水不足量	—	約2,100トﾝ	約6,100トﾝ	—
仮設トイレ需要数	約1,500基	約4,700基	約7,200基	約1,300基
経済被害（直接・間接）	約1兆7,000億円	約6兆3,000億円	約12兆円	約1兆4,000億円

※1 日常受けていた治療が医療機関の損壊等により継続して受けられなくなる人数

※2 阪神・淡路大震災と同じような住宅対応がされた場合

資料 10-12 東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査の概要

この資料は、愛知県が平成23年度から25年度に実施した地震被害予測調査に基づき、被害量の想定結果の概要、及び減災効果と今後の地震防災・減災対策について取りまとめたものである。

I. 被害量の想定結果のまとめ

1. 調査対象とした地震・津波

南海トラフで繰り返し発生する大規模な海溝型地震は、本県に与える影響は極めて大きく、その発生確率や被害規模から、本県としてまず対策を講ずべき対象として考慮するものである。

南海トラフで発生する地震・津波には多様性があり、予測困難なものがあるが、効果的な防災・減災対策の実施に繋げていくため、南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうちで過去に実際に発生したものを参考に想定することとした。（「A 過去地震最大モデル」による想定）

なお、「命を守る」という観点で、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波についても、補足的に想定することとした。（「B 理論上最大想定モデル」による想定）

「A 過去地震最大モデル」

- 南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで規模の大きいもの（宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震）を重ね合わせたモデルである。
- 本県の地震・津波対策を進める上で軸となる想定として位置付けられるものであり、「B 理論上最大想定モデル」の対策にも資するものである。

【補足】「B 理論上最大想定モデル」

- 南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波を想定。千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いものである。
- 今回の調査で想定した「B 理論上最大想定モデル」の検討ケースは、国の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」による震源及び波源モデル（平成24年8月29日公表）の内、次のものである。
 - ・ 国の地震ケース（5通り）の内、陸側ケース及び東側ケース
 - ・ 国の津波ケース（①～⑪）の内、津波ケース①、⑥、⑦、⑧、⑨
- 本県の地震・津波対策を検討する上で、「命を守る」という観点で補足的に参照するものである。

2. 想定した項目等

- 今回の調査において想定した地震・津波に基づき、建物被害、人的被害等の被害量を想定した。また、想定時間帯については、県民の生活行動が反映できるよう、冬深夜5時、夏昼12時、冬夕方18時を設定して、被害量を想定するとともに、対策を講じることによる減災効果を併せて想定した。
- 「A 過去地震最大モデル」については、実際に対策を進める上で参照するものとして、さらにライフライン被害等、経済被害額についても想定した。

季節時間帯	想定される被害の特徴
① 冬深夜5時	➤ 県民の多くが自宅で就寝中に被災するため、家屋倒壊による死者が発生する危険性が高く、また津波からの避難が遅れる。
② 夏昼12時	➤ オフィス、繁華街等に多数の滞留者が集中しており、自宅外で被災する機会が多い。
③ 冬夕方18時	➤ 住宅、飲食店などで火気使用が最も多い時間帯で、出火件数が最も多くなる。 ➤ オフィスや繁華街周辺のほか、ターミナル駅にも滞留者が多数存在する。

3. 留意事項

- 今回の調査は、今後の効果的な防災・減災対策の推進を目的として実施したものであり、次に発生する地震・津波を具体的に想定したものではない。したがって、平成14年度、15年度に想定していた、東海地震単独、あるいは東海地震・東南海地震が連動する地震・津波が発生する場合や、今回の想定を上回る規模の地震・津波が発生する場合など、次に発生する地震・津波については様々な可能性が考えられる。
- 今回の調査では、堤防等の被災について、「津波防災地域づくりに関する法律」に関連して示された「津波浸水想定の設定の手引き」（国土交通省）を参照し、強い揺れや地盤の液状化により一定の被害を受けることを前提としている。実際の地震・津波が発生した場合には、地盤沈下や堤防等の被災状況等によって、様相は大きく異なることもありうる。
- 今回の調査は、ある条件のもとに県内の被害について想定を行ったものであり、今回の想定と異なる地震・津波により異なる様相となることもありうることから、県内の全ての地域における防災・減災対策が必要であることは言うまでもない。
- 今回の調査では、被害が定量化できない事項もあり、また、長周期地震動対策など、今の課題として残されたものもある。
- 今回の調査における想定結果は、被害評価手法の開発等の新たな知見やデータの更新によって、適宜見直されるものであり、各主体においてより詳細な検討が進められることが期待される。

4. 被害量の想定結果

(1) 建物被害（全壊・焼失棟数）

想定地震の区分	A 過去地震最大 モデル 市町村別内訳：表①	B 理論上最大想定 モデル 市町村別内訳：表②	【参考】 国・最大クラス (県別のみ *1)
堤防等の条件 (土堰堤)	被災する (50%又は75%沈下 * 2)	被災する (75%沈下 * 3)	被災しない
揺れによる全壊	約 47,000 棟	約 242,000 棟	約 243,000 棟
液状化による全壊	約 16,000 棟	約 16,000 棟	約 23,000 棟
浸水・津波による全壊	約 8,400 棟	約 22,000 棟	約 2,600 棟
急傾斜地崩壊等による 全壊	約 600 棟	約 700 棟	約 400 棟
地震火災による焼失	約 23,000 棟	約 101,000 棟	約 119,000 棟
合 計	約 94,000 棟	約 382,000 棟	約 388,000 棟

注1) 端数処理のため合計が各数値の和に一致しない場合がある。

注2) 本県の A 過去地震最大モデルは、季節時間帯別に3ケース想定したうち、県全体の全壊・焼失棟数の合計が最大となる場合（冬夕方 18 時）を記載している。

注3) 本県の B 理論上最大想定モデルは、地震及び津波のケース別に複数想定したうち、県全体の全壊・焼失棟数の合計が最大となる場合（地震：陸側ケース、津波：ケース⑦、季節時間帯：冬夕方 18 時）を記載している。

* 1 : 国が平成 24 年 8 月 29 日に公表した被害想定では、全壊・焼失棟数については都府県別のみ公表であり、市町村別の内訳は示されていない。なお、本県においては、平成 25 年 5 月 30 日に国の震度分布・液状化危険度・浸水想定域等を前提とした市町村別の全壊・焼失棟数を試算している。

* 2 : 東海・東南海地震（愛知県東海地震・東南海地震等被害予測調査 H15.3）に対し耐震性を有している箇所および液状化危険度が小さい箇所について 50%沈下、それ以外は 75%で想定。

* 3 : すべての箇所について、75%沈下で想定。

(2) 人的被害（死者数）

想定地震の区分	A 過去地震最大モデル 市町村別内訳：表③	B 理論上最大想定モデル 市町村別内訳：表④	【参考】 国・最大クラス (県別のみ *1)
堤防等の条件 (土堰堤)	被災する (50%又は75%沈下* 2)	被災する (75%沈下*3)	被災しない
建物倒壊等による死者	約2,400人	約14,000人	約15,000人
(うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)	(約200人)	(約1,000人)	(約1,300人)
浸水・津波による死者 *4	約3,900人	約13,000人	約6,400人
(うち自力脱出困難)*5	(約800人)	(約5,500人)	(公表なし)
(うち逃げ遅れ)*6	(約3,100人)	(約7,100人)	(公表なし)
急傾斜地崩壊等による死者	約50人	約70人	約50人
地震火災による死者	約90人	約2,400人	約1,800人
死者数合計	約6,400人	約29,000人	約23,000人

注1) 端数処理のため合計が各数値の和に一致しない場合がある。

注2) 本県の A 過去地震最大モデルは、季節時間帯別に3ケース想定したうち、県全体の死者数の合計が最大となる場合（冬深夜5時）を記載している。

注3) 本県の B 理論上最大想定モデルは、地震及び津波のケース別に複数想定したうち、県全体の死者数の合計が最大となる場合（地震：陸側ケース、津波：ケース①、季節時間帯：冬深夜5時）を記載している。

*1 : 国が平成24年8月29日に公表した被害想定では、死者数については都府県別のみの公表であり、市町村別の内訳は示されていない。なお、本県においては、平成25年5月30日に国の震度分布・液状化危険度・浸水想定域等を前提とした市町村別の死者数を試算している。

*2 : 東海・東南海地震（愛知県東海地震・東南海地震等被害予測調査 H15.3）に対し耐震性を有している箇所および液状化危険度が小さい箇所について50%沈下、それ以外は75%で想定。

*3 : すべての箇所について、75%沈下で想定。

*4 : <早期避難率低> の場合

早期避難者比率が低い場合の避難の有無、避難開始時期を設定。「すぐに避難する」を20%、「避難はするがすぐには避難しない」を50%、「切迫避難あるいは避難しない」を30%としている。（国の設定に準拠）

*5 : 建物倒壊や家具転倒等により自力で脱出することが困難となったもの（自力脱出困難者）が、浸水・津波に巻き込まれることによる死者。

*6 : 自力脱出困難者以外のものが、浸水・津波から逃げ切れずに巻き込まれることによる死者。

(3) ライフライン被害「A 過去地震最大モデル」

項目		想定結果	
上水道	給水人口		約 7,375,000 人
	断水人口 (率)	直 後	約 7,021,000 人 (約 95%)
		1 日後	約 6,306,000 人 (約 86%)
		1 週間後	約 3,834,000 人 (約 52%)
		1 ヶ月後	約 579,000 人 (約 8%)
復旧期間		6 週間程度	
下水道	処理人口		約 5,376,000 人
	機能支障人口 (率)	直 後	約 953,000 人 (約 18%)
		1 日後	約 3,207,000 人 (約 60%)
		1 週間後	約 538,000 人 (約 10%)
		1 ヶ月後	約 74,000 人 (約 1%)
復旧期間		3 週間程度	
電 力	需要軒数		約 4,227,000 軒
	停電軒数 (率)	直 後	約 3,757,000 軒 (約 89%)
		1 日後	約 3,406,000 軒 (約 81%)
		4 日後	約 58,000 軒 (約 1%)
		1 週間後	約 36,000 軒 (約 1%)
復旧期間		1 週間程度	
通 信 【固定電話】	需要回線数		約 1,352,000 回線
	不通回線数 (率)	直 後	約 1,205,000 回線 (約 89%)
		1 日後	約 1,094,000 回線 (約 81%)
		1 週間後	約 31,000 回線 (約 2%)
		1 ヶ月後	約 24,000 回線 (約 2%)
復旧期間		1 週間程度	
通 信 【携帯電話】	停波基地局率	直 後	約 2%
		1 日後	約 81%
		4 日後	約 3%
		1 週間後	約 2%
	復旧期間		1 週間程度
ガ ス 【都市ガス】	需要戸数		約 1,862,000 戸
	復旧対象戸数(率)	直 後	約 169,000 戸 (約 9%)
		1 日後	約 169,000 戸 (約 9%)
		1 週間後	約 130,000 戸 (約 7%)
		1 ヶ月後	—
復旧期間		2 週間程度	
ガ ス 【LPガス】	需要世帯数		約 999,000 世帯
	機能支障世帯(率)	直 後	約 162,000 世帯 (約 16%)
	復旧期間		1 週間程度

注 1) 復旧期間の算定においては、津波等により被災した需要戸数等は復旧対象戸数等から除外し、95%が復旧するのにかかる日数としている。

注 2) LP ガスについては、被害量の推移は試算していない。

(4) その他の主な被害「A 過去地震最大モデル」

○ 生活への影響

区 分		内 容	
避難者 (避難者数)	1 日後	避難所	約 378,000 人
		避難所外	約 341,000 人
		合 計	約 718,000 人
	1 週間後	避難所	約 799,000 人
		避難所外	約 748,000 人
		合 計	約 1,547,000 人
	1 カ月後	避難所	約 298,000 人
		避難所外	約 832,000 人
		合 計	約 1,130,000 人
帰宅困難者数	平日 12 時	約 858,000 人～約 930,000 人	
物資不足	飲料水 不足	1～3 日目の計	約 13,000 トン
		4～7 日目の計	約 245,000 トン
	食料 不足	1～3 日目の計	約 214 万食
		4～7 日目の計	約 791 万食
	毛布不足		約 45 万枚
医療機能支障	入院対応不足数	約 6,300 人	
	外来対応不足数	約 5,100 人	

○ 災害廃棄物等

区 分	内 容
災害廃棄物（がれき）	約 13,374,000 トン
津波堆積物	約 6,864,000 トン
合 計	約 20,238,000 トン

(5) 経済被害額「A 過去地震最大モデル」

○直接的経済被害（復旧に要する費用）

被 害		被害額（億円）
住宅		約 67,100
オフィスビル等		約 19,600
家財		約 21,000
その他償却資産		約 3,800
在庫資産		約 3,900
ライフライン	上水道	約 600
	下水道	約 5,500
	電力	約 1,100
	通信	約 1,700
	都市ガス	約 400
交通施設	道路	約 4,100
	鉄道	約 1,300
	港湾	約 3,900
農地		約 2,200
その他公共土木施設		約 2,400
合計		約 13.86 兆円

注：端数処理のため合計が各数値の和に一致しない。

○間接的経済被害（生産額の低下）

産 業	県内総生産 低下額（億円）
農林水産業	約 200
鉱業	約 100
製造業	約 9,100
建設	約 1,400
公益事業	約 1,200
商業	約 2,300
金融・保険・不動産	約 4,600
運輸	約 1,900
情報通信	約 2,600
公務等	約 800
サービス	約 5,300
その他	約 600
合計	約 3.00 兆円

注：端数処理のため合計が各数値の和に一致しない。

建物被害（市町村別内訳）

表① 全壊・焼失棟数：「A 過去地震最大モデル」による想定（棟）

番号	市町村	揺れ	液状化	浸水・津波	急傾斜地崩壊等	火災	合計
1	名古屋市	約 5,700	約 6,300	約 2,700	約 40	約 5,100	約 20,000
2	豊橋市	約 5,500	約 100	約 200	約 20	約 3,100	約 9,000
3	岡崎市	約 2,300	約 200	*	約 60	約 1,300	約 3,900
4	一宮市	約 80	約 2,700	*	*	約 10	約 2,800
5	瀬戸市	約 10	約 10	*	約 10	約 10	約 40
6	半田市	約 700	約 10	約 50	約 10	約 700	約 1,500
7	春日井市	約 70	約 10	*	*	約 200	約 300
8	豊川市	約 2,100	約 10	約 10	約 20	約 800	約 2,900
9	津島市	約 200	約 500	約 60	*	約 100	約 900
10	碧南市	約 2,900	約 20	約 200	*	約 2,100	約 5,200
11	刈谷市	約 700	約 10	約 90	*	約 600	約 1,400
12	豊田市	約 500	約 40	*	約 80	約 40	約 700
13	安城市	約 1,300	*	*	*	約 600	約 1,900
14	西尾市	約 8,900	約 400	約 2,600	約 20	約 3,000	約 15,000
15	蒲郡市	約 1,000	約 10	約 10	約 30	約 400	約 1,500
16	犬山市	約 10	*	*	*	*	約 10
17	常滑市	約 400	約 10	約 200	約 20	約 10	約 500
18	江南市	*	約 10	*	*	*	約 10
19	小牧市	約 30	*	*	*	約 10	約 40
20	稲沢市	約 200	約 1,800	*	*	約 10	約 2,100
21	新城市	約 200	*	*	約 50	*	約 200
22	東海市	約 1,300	約 70	約 100	約 10	約 1,100	約 2,700
23	大府市	約 900	*	*	*	約 300	約 1,200
24	知多市	約 500	約 20	*	約 10	約 200	約 700
25	知立市	約 300	*	*	*	約 200	約 500
26	尾張旭市	約 50	*	*	*	約 10	約 60
27	高浜市	約 500	約 10	約 20	*	約 500	約 1,100
28	岩倉市	約 20	約 20	*	*	*	約 40
29	豊明市	約 300	*	*	*	約 70	約 300
30	日進市	約 100	*	*	*	約 20	約 200
31	田原市	約 4,200	約 60	約 100	約 40	約 800	約 5,200
32	愛西市	約 200	約 700	約 200	*	約 10	約 1,100
33	清須市	約 90	約 200	*	*	約 20	約 300
34	北名古屋市	約 50	約 100	*	*	約 20	約 200
35	弥富市	約 200	約 400	約 1,400	*	約 20	約 2,100
36	みよし市	約 200	約 10	*	*	*	約 200
37	あま市	約 300	約 1,100	*	*	約 10	約 1,400
38	長久手市	約 70	*	*	*	約 10	約 80
39	東郷町	約 90	*	*	*	約 10	約 100
40	豊山町	*	*	*	*	*	*
41	大口町	*	*	*	*	*	*
42	扶桑町	*	約 10	*	*	*	約 20
43	大治町	約 70	約 200	*	*	約 10	約 300
44	蟹江町	約 300	約 200	約 50	*	約 50	約 600
45	飛島村	約 200	約 30	約 200	*	*	約 500
46	阿久比町	約 300	*	*	約 10	約 80	約 300
47	東浦町	約 600	約 10	約 60	*	約 700	約 1,300
48	南知多町	約 1,700	*	約 200	約 60	約 300	約 2,200
49	美浜町	約 900	約 10	約 30	約 10	約 200	約 1,200
50	武豊町	約 500	約 20	約 10	*	約 200	約 700
51	幸田町	約 200	*	*	約 20	約 10	約 200
52	設楽町	約 20	*	*	約 10	*	約 30
53	東栄町	約 30	*	*	約 20	*	約 50
54	豊根村	*	*	*	約 10	*	約 10
-	合計	約 47,000	約 16,000	約 8,400	約 600	約 23,000	約 94,000

*：被害わずか 想定条件：冬夕、風速 5m/s

- ※ 下の①～④にしたがって端数処理を行ったため、合計が各項目の和に一致しない場合がある。
 ①5未満→「*」、②5以上100未満 → 「一の位を四捨五入」、③100以上1万未満 → 「十の位を四捨五入」、④1万以上 → 「百の位を四捨五入」
 ※ 季節時間帯別で想定した3ケースのうち、県全体の全壊・焼失棟数の合計が最大となるケース（冬夕方 18時）を記載している。

表② 全壊・焼失棟数：「B 理論上最大想定モデル」による想定

(棟)

番号	市町村	揺れ	液状化	浸水・津波	急傾斜地崩壊等	火災	合計
1	名古屋市	約 30,000	約 6,500	約 8,400	約 50	約 19,000	約 64,000
2	豊橋市	約 34,000	約 100	約 300	約 20	約 11,000	約 46,000
3	岡崎市	約 9,600	約 200	*	約 60	約 5,600	約 16,000
4	一宮市	約 2,200	約 3,000	*	*	約 1,900	約 7,100
5	瀬戸市	約 200	約 10	*	約 30	約 90	約 300
6	半田市	約 9,300	約 20	約 40	約 10	約 4,800	約 14,000
7	春日井市	約 300	約 20	*	*	約 500	約 800
8	豊川市	約 13,000	約 10	約 20	約 20	約 4,300	約 17,000
9	津島市	約 2,300	約 500	約 1,900	*	約 1,300	約 5,900
10	碧南市	約 10,000	約 20	約 100	*	約 5,200	約 15,000
11	刈谷市	約 6,400	約 10	約 60	*	約 3,600	約 10,000
12	豊田市	約 2,500	約 40	*	約 70	約 1,600	約 4,300
13	安城市	約 11,000	*	*	*	約 4,000	約 15,000
14	西尾市	約 24,000	約 400	約 1,100	約 30	約 5,400	約 31,000
15	蒲郡市	約 4,300	約 10	約 10	約 40	約 2,200	約 6,600
16	犬山市	約 10	*	*	*	*	約 20
17	常滑市	約 4,300	約 10	約 70	約 20	約 2,400	約 6,800
18	江南市	約 20	約 10	*	*	約 10	約 40
19	小牧市	約 80	*	*	*	約 40	約 100
20	稲沢市	約 4,400	約 1,900	*	*	約 2,200	約 8,500
21	新城市	約 1,800	*	*	約 80	約 20	約 1,900
22	東海市	約 5,100	約 70	約 200	約 10	約 2,600	約 8,000
23	大府市	約 2,800	*	*	*	約 800	約 3,700
24	知多市	約 5,200	約 20	*	約 20	約 2,000	約 7,200
25	知立市	約 2,800	*	*	*	約 1,500	約 4,300
26	尾張旭市	約 300	*	*	*	約 60	約 400
27	高浜市	約 3,000	約 10	約 20	*	約 2,200	約 5,300
28	岩倉市	約 200	約 30	*	*	約 200	約 400
29	豊明市	約 1,500	*	*	*	約 700	約 2,200
30	日進市	約 600	*	*	*	約 300	約 900
31	田原市	約 9,000	約 60	約 40	約 50	約 1,400	約 11,000
32	愛西市	約 3,100	約 700	約 3,500	*	約 600	約 7,900
33	清須市	約 1,700	約 200	*	*	約 1,900	約 3,900
34	北名古屋市	約 500	約 100	*	*	約 1,300	約 2,000
35	弥富市	約 2,600	約 400	約 4,600	*	約 200	約 7,900
36	みよし市	約 900	約 10	*	*	約 200	約 1,100
37	あま市	約 3,600	約 1,100	約 60	*	約 1,700	約 6,500
38	長久手市	約 200	*	*	*	約 50	約 300
39	東郷町	約 700	*	*	*	約 200	約 900
40	豊山町	約 40	*	*	*	約 100	約 200
41	大口町	約 10	*	*	*	*	約 10
42	扶桑町	約 10	約 10	*	*	*	約 30
43	大治町	約 900	約 200	*	*	約 300	約 1,400
44	蟹江町	約 1,600	約 200	約 1,200	*	約 600	約 3,700
45	飛島村	約 800	約 30	約 300	*	約 10	約 1,200
46	阿久比町	約 2,600	*	*	約 10	約 600	約 3,100
47	東浦町	約 2,800	約 10	約 40	*	約 2,200	約 5,100
48	南知多町	約 7,000	約 10	約 60	約 70	約 1,100	約 8,300
49	美浜町	約 5,200	約 10	約 20	約 20	約 1,000	約 6,200
50	武豊町	約 6,000	約 20	*	*	約 1,300	約 7,300
51	幸田町	約 900	*	*	約 20	約 200	約 1,100
52	設楽町	約 90	*	*	約 20	*	約 100
53	東栄町	約 40	*	*	約 20	*	約 60
54	豊根村	*	*	*	*	*	*
-	合計	約 242,000	約 16,000	約 22,000	約 700	約 101,000	約 382,000

*：被害わずか 想定条件：冬夕、風速 5m/s

- ※ 下の①～④にしたがって端数処理を行ったため、合計が各項目の和に一致しない場合がある。
 ①5未満→「*」、②5以上100未満 → 「一の位を四捨五入」、③100以上1万未満 → 「十の位を四捨五入」、④1万以上 → 「百の位を四捨五入」
- ※ 地震及び津波のケース別、季節時間帯別に複数想定したうち県全体の全壊・焼失棟数の合計が最大となるケース（地震：陸側ケース、津波：ケース⑦、季節時間帯：冬夕方 18時）を記載している。

人的被害（市町村別内訳）

表③ 死者数： 「A 過去地震最大モデル」による想定 (人)

番号	市町村	建物倒壊等		浸水・津波			急傾地崩壊等	火災	合計
			(うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)		(うち自力脱出困難)	(うち逃げ遅れ)			
1	名古屋市	約 300	約 40	約 1,200	約 200	約 1,100	*	約 10	約 1,500
2	豊橋市	約 300	約 20	約 70	約 30	約 50	*	*	約 400
3	岡崎市	約 100	約 10	*	*	*	約 10	*	約 100
4	一宮市	*	*	*	*	*	*	*	*
5	瀬戸市	*	*	*	*	*	*	*	*
6	半田市	約 50	*	約 20	約 10	約 20	*	*	約 70
7	春日井市	*	*	*	*	*	*	*	*
8	豊川市	約 100	約 10	約 20	*	約 10	*	*	約 100
9	津島市	約 10	*	約 30	*	約 30	*	*	約 40
10	碧南市	約 200	約 10	約 100	約 70	約 60	*	*	約 300
11	刈谷市	約 30	*	約 10	*	約 10	*	*	約 40
12	豊田市	約 20	約 10	*	*	*	約 10	*	約 30
13	安城市	約 60	約 10	*	*	*	*	*	約 60
14	西尾市	約 500	約 30	約 1,200	約 300	約 900	*	約 50	約 1,800
15	蒲郡市	約 70	*	約 20	*	約 10	*	*	約 90
16	犬山市	*	*	*	*	*	*	*	*
17	常滑市	約 20	*	約 80	約 10	約 70	*	*	約 100
18	江南市	*	*	*	*	*	*	*	*
19	小牧市	*	*	*	*	*	*	*	*
20	稲沢市	約 10	*	*	*	*	*	*	約 10
21	新城市	約 10	*	*	*	*	*	*	約 10
22	東海市	約 70	約 10	約 40	約 10	約 30	*	約 10	約 100
23	大府市	約 40	*	*	*	*	*	*	約 40
24	知多市	約 20	*	*	*	*	*	*	約 30
25	知立市	約 10	*	*	*	*	*	*	約 10
26	尾張旭市	*	*	*	*	*	*	*	*
27	高浜市	約 30	*	約 20	*	約 20	*	*	約 40
28	岩倉市	*	*	*	*	*	*	*	*
29	豊明市	約 10	*	*	*	*	*	*	約 10
30	日進市	*	*	*	*	*	*	*	*
31	田原市	約 200	約 10	約 100	約 70	約 40	*	*	約 300
32	愛西市	約 10	*	約 10	約 10	約 10	*	*	約 20
33	清須市	*	*	*	*	*	*	*	*
34	北名古屋市	*	*	*	*	*	*	*	*
35	弥富市	約 10	*	約 300	約 20	約 300	*	*	約 300
36	みよし市	*	*	*	*	*	*	*	*
37	あま市	約 10	*	*	*	*	*	*	約 20
38	長久手市	*	*	*	*	*	*	*	*
39	東郷町	*	*	*	*	*	*	*	*
40	豊山町	*	*	*	*	*	*	*	*
41	大口町	*	*	*	*	*	*	*	*
42	扶桑町	*	*	*	*	*	*	*	*
43	大治町	*	*	*	*	*	*	*	*
44	蟹江町	約 10	*	約 20	約 10	約 10	*	*	約 30
45	飛島村	約 10	*	約 30	約 10	約 30	*	*	約 40
46	阿久比町	約 10	*	*	*	*	*	*	約 10
47	東浦町	約 30	*	約 10	約 10	*	*	*	約 40
48	南知多町	約 100	*	約 400	約 60	約 400	約 10	*	約 600
49	美浜町	約 60	*	約 20	約 10	約 10	*	*	約 80
50	武豊町	約 30	*	約 10	*	*	*	*	約 30
51	幸田町	約 10	*	*	*	*	*	*	約 10
52	設楽町	*	*	*	*	*	*	*	*
53	東栄町	*	*	*	*	*	*	*	*
54	豊根村	*	*	*	*	*	*	*	*
-	合計	約 2,400	約 200	約 3,900	約 800	約 3,100	約 50	約 90	約 6,400

*：被害わずか 想定条件：風速 5m/s、早期避難率低

※ 下の①～④にしたがって端数処理を行ったため、合計が各項目の和に一致しない場合がある。

① 5未満→「*」、② 5以上100未満 →「一の位を四捨五入」、③ 100以上1万未満 →「十の位を四捨五入」、④ 1万以上 →「百の位を四捨五入」

※ 季節時間帯別で想定した3ケースのうち、県全体の死者数の合計が最大となる場合（冬深夜5時）を記載している。

表④ 死者数： 「B 理論上最大想定モデル」による想定 (人)

番号	市町村	建物倒壊等		浸水・津波			急傾斜地崩壊等	火災	合計
		(うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)		(うち自力脱出困難)	(うち逃げ遅れ)				
1	名古屋市	約 1,700	約 100	約 3,400	約 1,800	約 1,500	*	約 200	約 5,300
2	豊橋市	約 1,900	約 100	約 700	約 400	約 300	*	約 500	約 3,000
3	岡崎市	約 500	約 30	*	*	*	約 10	約 90	約 600
4	一宮市	約 100	約 10	*	*	*	*	*	約 100
5	瀬戸市	約 10	*	*	*	*	*	*	約 20
6	半田市	約 600	約 40	約 200	約 100	約 30	*	約 200	約 900
7	春日井市	約 10	*	*	*	*	*	*	約 10
8	豊川市	約 800	約 40	約 50	約 20	約 30	*	約 100	約 900
9	津島市	約 100	約 10	約 900	約 200	約 700	*	約 10	約 1,000
10	碧南市	約 600	約 40	約 400	約 300	約 80	*	約 200	約 1,200
11	刈谷市	約 300	約 30	約 20	約 10	約 10	*	約 90	約 400
12	豊田市	約 200	約 10	*	*	*	約 10	*	約 200
13	安城市	約 600	約 40	*	*	*	*	約 100	約 700
14	西尾市	約 1,400	約 90	約 1,600	約 900	約 700	*	約 200	約 3,200
15	蒲郡市	約 300	約 10	約 70	約 30	約 40	*	約 50	約 400
16	犬山市	*	*	*	*	*	*	*	*
17	常滑市	約 300	約 10	約 200	約 100	約 100	*	約 50	約 500
18	江南市	*	*	*	*	*	*	*	*
19	小牧市	*	*	*	*	*	*	*	*
20	稲沢市	約 300	約 20	*	*	*	*	約 30	約 300
21	新城市	約 100	約 10	*	*	*	約 10	*	約 100
22	東海市	約 300	約 20	約 60	約 30	約 30	*	約 100	約 400
23	大府市	約 200	約 10	*	*	*	*	約 10	約 200
24	知多市	約 300	約 20	約 10	*	*	*	約 60	約 400
25	知立市	約 100	約 10	*	*	*	*	約 30	約 200
26	尾張旭市	約 10	*	*	*	*	*	*	約 10
27	高浜市	約 200	約 10	約 30	約 20	約 20	*	約 60	約 300
28	岩倉市	約 10	*	*	*	*	*	*	約 10
29	豊明市	約 70	約 10	*	*	*	*	*	約 80
30	日進市	約 30	*	*	*	*	*	*	約 30
31	田原市	約 500	約 30	約 900	約 200	約 700	*	約 50	約 1,500
32	愛西市	約 200	約 10	約 800	約 200	約 600	*	*	約 1,000
33	清須市	約 90	約 10	*	*	*	*	約 20	約 100
34	北名古屋市	約 30	*	*	*	*	*	*	約 30
35	弥富市	約 200	約 10	約 1,000	約 300	約 700	*	*	約 1,200
36	みよし市	約 40	*	*	*	*	*	*	約 40
37	あま市	約 200	約 10	約 60	約 60	約 10	*	約 20	約 300
38	長久手市	約 10	*	*	*	*	*	*	約 10
39	東郷町	約 40	*	*	*	*	*	*	約 40
40	豊山町	*	*	*	*	*	*	*	*
41	大口町	*	*	*	*	*	*	*	*
42	扶桑町	*	*	*	*	*	*	*	*
43	大治町	約 50	*	*	*	*	*	*	約 50
44	蟹江町	約 90	約 10	約 600	約 200	約 500	*	*	約 700
45	飛鳥村	約 40	*	約 90	約 50	約 40	*	*	約 100
46	阿久比町	約 100	約 10	*	*	*	*	約 20	約 200
47	東浦町	約 200	約 10	約 50	約 40	約 10	*	約 80	約 300
48	南知多町	約 400	約 20	約 1,300	約 400	約 1,000	約 10	約 30	約 1,800
49	美浜町	約 300	約 20	約 80	約 50	約 30	*	約 40	約 400
50	武豊町	約 400	約 30	約 40	約 30	約 10	*	約 60	約 500
51	幸田町	約 50	*	*	*	*	*	*	約 60
52	設楽町	約 10	*	*	*	*	*	*	約 10
53	東栄町	*	*	*	*	*	*	*	*
54	豊根村	*	*	*	*	*	*	*	*
-	合計	約 14,000	約 1,000	約 13,000	約 5,500	約 7,100	約 70	約 2,400	約 29,000

* : 被害わずか 想定条件：風速 5m/s、早期避難率低

- ※ 下の①～④にしたがって端数処理を行ったため、合計が各項目の和に一致しない場合がある。
 ① 5未満 → 「*」、 ② 5以上 100未満 → 「一の位を四捨五入」、 ③ 100以上 1万未満 → 「十の位を四捨五入」、
 ④ 1万以上 → 「百の位を四捨五入」
- ※ 地震及び津波のケース別、季節時間帯別に複数想定したうち県全体の死者数の合計が最大となる場合（地震：陸側ケース、津波：ケース①、季節時間帯：冬深夜 5 時）を記載している。